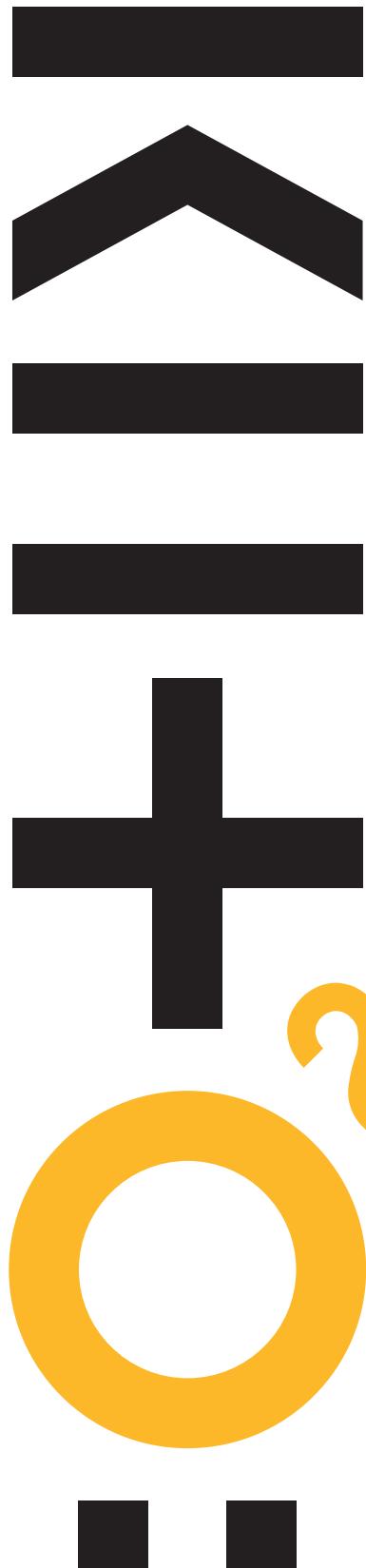


# DESIGN AND CREATIVE CENTER KOBE



2013  
KIITO Documentary Book  
April 1, 2013  
→  
March 31, 2014

# KIITO Documentary Book 2013

ひと、まち、せかいの、センターになる。  
デザイン・クリエイティブセンター神戸

Destined to Become a Center for People, the City, and the World -  
Design and Creative Center Kobe

April 1, 2013 → March 31, 2014



|   |                           |    |
|---|---------------------------|----|
| 0 | イントロダクション<br>Introduction | 01 |
| 1 | KIITO について<br>About KIITO | 06 |
| 2 | プロジェクト<br>Projects        | 12 |
| 3 | データ<br>Data               | 70 |

みんなが  
クリエイティブになる。  
そんな時代の中心になる。

神戸で暮らす人や働く人。子どもや、若者や、大人たち。

そんなすべての人が集まり、話し、つぎつぎに何かを生みだしていく場所。

それがデザイン・クリエイティブセンター神戸です。

一部のアーティストやデザイナーだけでなく、

さまざまな人や世代が交流し、そこから生まれるアイデアや工夫で

新しい神戸をつくっていく。

その「実践」が積み重なれば、じぶんの街への愛着が増し、

街そのものにも個性が生まれ、やがては神戸の経済もより元気になっていく。

人がクリエイティブになること。街がクリエイティブになること。

この場所が、そのための中心地となること。

近い将来、日本や世界のまちづくりのお手本になるために、

神戸三宮の地で、かつてない試みが動き出します。

ひと、まち、せかいの、センターになる。  
デザイン・クリエイティブセンター神戸

A Center Destined for a Central Role to Drive an Era of Creativity within All.

Kobe is a city in which people of all ages live, work and play.

It is also home to a special place where everyone - whether child, teenager or adult - can gather together, converse, and create new things again and again.

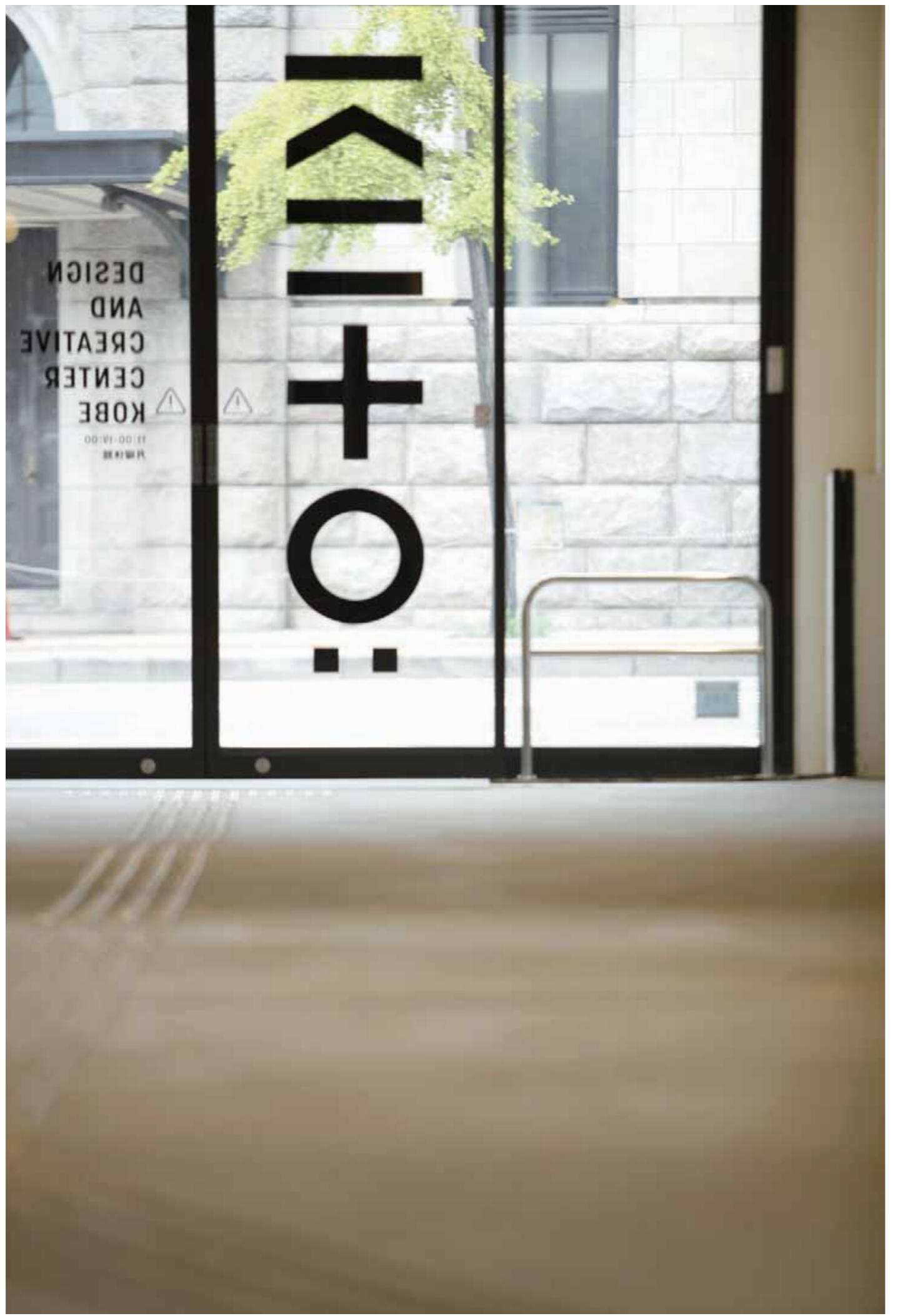
This place is the Design and Creative Center Kobe (KIITO).

From now on, building Kobe's future will depend not only on a select group of artists and designers but also on the ideas and devices born from interaction between different kinds of people of various generations. As this form of interaction grows and gains momentum, our citizens' attachment to their home city will increase, individuality will thrive and, before long, manifest itself in the economic improvement of Kobe. Both individuals and the city itself will become more creative with KIITO playing a central role to drive this dynamic.

In the near future, starting within Kobe's Sannomiya area, an unprecedented attempt will be made to turn Kobe into a role model for urban development, both for Japan and for the wider world.

Destined to Become a Center for People, the City, and the World -  
The Design and Creative Center Kobe





1

## KII TOについて About KII TO

- デザイン・クリエイティブセンター神戸 センター長 メッセージ
- デザイン・クリエイティブセンター神戸 副センター長 メッセージ
- 事業概要



## 市民と学び合うクリエイティブなマインド。

デザイン・クリエイティブセンター神戸はデザイン都市・神戸の創造と人材の育成・集積・交流の拠点として、2012年8月8日に開設されたから、無事、2事業年度を終えたことになる。阪神高速神戸線の海側という立地もあって、周知に多少の不安もあったが、これまでの活動を通して、その存在は確実に知られてきたと考えている。

「クリエイティブに！」と掛け声をかけることは容易い。しかし重要なのは、市民それぞれの、人それぞれの創造性の開花であり、それなしにはいかなる掛け声もむなしく宙を舞うだけだろう。こうした観点から、当センターは当初から、まずもって人のクリエイティブなマインドを育てるに力を入れてきた。いや、育てるというよりは相互に学び合うという言い方が正しいかもしれない。このような営みに派手さではなく、時間のかかる地道な取り組みではあるけれど、ここにセンター活動の基礎を置こうと考えたのである。

特筆すべきは、多様な市民が参加する数多くの「+クリエイティブゼミ」から、神戸が抱えるさまざまな社会課題に対してクリエイティブな働きかけの提案が生まれ、しかもそこから実際に、具体的なアクションが生まれはじめていることだ。市民自身がさまざまな社会課題に対して創造的に解決を図っていく、そんな活動拠点がここに生まれたなら、どんなにすばらしいことだろう。振り返れば、センターが向かっていくべき姿の輪郭が、より明確になっていった2年であったと私は思う。

明らかに我が国は人口減少時代という新たなフェーズに突入している。モノを大量に生産し大量に消費するという時代は終わり、デザインの重点もモノのデザインからコトのデザインに移りつつある。急激に人口減少と高齢化が進む我が国は、世界的に見ても社会変化のフロンティアにあり、そこでデザイン、そして創造性の意味を問い合わせていくことこそ、当センターの時代的な使命であると考える。KIITOの挑戦はこれからも休むことなく続けられていくのだ。



芹沢 高志 *Takashi Serizawa*

デザイン・クリエイティブセンター神戸  
センター長

1951年東京生まれ。神戸大学理学部數学科、横浜国立大学工学部建築学科卒業。東京・四谷の禪寺、東長寺の新伽藍建設計画に参加したことから、1989年にP3 art and environmentを開設。99年までは東長寺境内地下の講堂をベースに、その後は場所を特定せずに、さまざまなアート、環境関係のプロジェクトを展開している。2014年より東長寺対面のビルにプロジェクトスペースを新設。帝広競馬場で開かれたとち国際現代アート展「デメーテル」総合ディレクター(2002年)、アサヒ・アート・フェスティバル事務局長(2003年～)、横浜トリエンナーレ2005キュレーター、別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」総合ディレクター(2009年、2012年)などを務める。

## 「場」と「ネットワーク」づくりから、「人」づくりへ。

デザイン・クリエイティブセンター神戸が開設して2年目が終了した。初年度に新たなチャレンジをスタートし、2年目となった今年度は、まさにセンターにとっての土台づくりを行った年であった。センターの土台をつくるうえで重要なのが「場づくり」と「ネットワークづくり」であった。「場づくり」では、社会の様々な課題をクリエイティブの力で解決する「+クリエイティブ」という活動コンセプトを具現化していくためのプロジェクトを多面的に展開した。デザインの日記念イベントの一環で開催した、日本をはじめとする東南アジア3ヶ国のクリエイターたちの示唆に富んだ防災活動を紹介した「EARTH MANUAL PROJECT 展」や神戸のオリジナリティを地理や歴史から紐解いた「神戸スタディーズ」、センター開設以前の3年前からスタートし、活動の幅を着実に広げつつある「+クリエイティブゼミ」など、センターを代表するプロジェクトはそれぞれ、センターにおいて「+クリエイティブ」な活動を展開するためのプラットフォームとなっており、多くの関係者と協働するための貴重な「場」として機能はじめている。

また、もう一つの土台づくりの要である「ネットワークづくり」に関しては、今年度は大きな進展があった。様々な「+クリエイティブ」な事業の実践を通して、クリエイターや大学生、市民、NPO、企業といった信頼できるパートナーたちとの新たな関係を構築し、その関係を着実に強化することができた。このように「ネットワークづくり」に関しては、既に一定の成果をあげることができたと感じている。

来年度から指定管理を任せられた4年間の後半の3年目に突入する。今後は、「場づくり」「ネットワークづくり」により磨きをかけるとともに、活動を共に推進してくれる「人づくり」にも積極的に取り組むことで、センターの「土台づくり」から、「定着、広がり」へとその活動の幅を広げていきたいと考えている。



永田 宏和 *Hirokazu Nagata*

デザイン・クリエイティブセンター神戸  
副センター長

1968年兵庫県生まれ。企画・プロデューサー。1993年大阪大学大学院修了後、大手建設会社勤務を経て、2001年「iop都市文化創造研究所」を設立。2006年「NPO法人プラス・アーツ」設立。2012年8月よりデザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)の副センター長を務める。主な企画・プロデュースの仕事に、「水都大阪2009・水辺の文化座」、「イザ！カエルキャラバン！」(2005～)、「地震 EXPO」(2006)、KIITO オープニングイベント「ちびっこうべ」(2012)などがある。



## 4つの活動方針 Four Activity Policies

+クリエイティブの実践の場をつくる。  
+クリエイティブの担い手をつくる。  
+クリエイティブの交流の場をつくる。  
+クリエイティブな情報発信と  
ネットワークを広げる。

Make a place for practicing +Creative.  
Cultivate +Creative leaders.  
Make a place for +Creative exchange.  
Disseminate +Creative information  
and networking.

## キーワード Key Word

### +クリエイティブ

+Creative

+クリエイティブとは、デザインや  
アートなど既成概念にとらわれない  
アイデアや工夫を取り入れ、  
身の周りの社会的問題を解決していく  
手法を意味する。

+Creative is a method for solving social  
problems within our communities by  
introducing new ideas and challenging  
- indeed surpassing - preconceived  
concepts about design and art, etc.

## +クリエイティブ +Creative

2012年8月8日  
開館時間 11:00 - 19:00  
月曜休館／入館無料

August 8, 2012  
Opening hours: 11:00-19:00  
Closed on Mondays / Admission free

## 設立 Establishment

敷地面積 8,601m<sup>2</sup>  
延床面積 13,779m<sup>2</sup>

Site area: 8,601m<sup>2</sup>  
Total Floor space: 13,779m<sup>2</sup>

## スペース Space

〒 651-0082  
兵庫県神戸市中央区小野浜町 1-4

1-4 Onohama-cho, Chuo-ku,  
Kobe-shi, Hyogo-ken, 651-0082 Japan

## アドレス Address

## Calendar

|             |  |
|-------------|--|
| 2013        | -2/28 MUJI+クリエイティブゼミ「Found MUJI 神戸」全23回<br>→7/6-2/23 Found MUJI 展示<br>→8/2 特別レクチャー vol.1<br>「Found MUJI」探す、見つけ出す、ものづくり<br>→9/20 特別レクチャー vol.2<br>「商品の理由(わけ)を伝えるための、無印良品の宣伝販促」<br>→12/19 特別レクチャー vol.3<br>「Global, Local, Universal」地域と世界をつなぐ無印良品<br>→2/28 特別レクチャー vol.4<br>「無印良品の商品開発」～インハウスデザイナーの仕事～<br>→3/1-3/30 Found MUJI 神戸 リサーチ編 成果発表展<br>→3/29 ワークショップ My Found MUJI<br>4/6・4/13 ものづくりワークショップ「カフェの床を張ろう」<br>映画部 vol.1 エルメス製作ドキュメンタリー映画<br>『ハート&クラフト』上映会＋トークセッション<br>4/18 +クリエイティブ普及セミナー「平成25年度神戸市新規採用職員研修」  |
| 4月<br>Apr.  | 5/7-7/9 +クリエイティブゼミ vol.4<br>「子育て支援」パワーアッププロジェクト 全10回<br>→5/28 特別講座「ソーシャルメディアと地域コミュニティ」   |
| 5月<br>May.  | 6/1 チャイルド・ケモ・ハウス チャリティーウォーク 2013<br>6/21-8/30 +クリエイティブゼミ vol.5 「デザイナーの次ののかたち」全10回<br>→7/5 特別講座「企画とデザインの繋ぎ方」<br>6/22-9/1 +クリエイティブワークショップ 建築とコンタクト<br>～ダンスで巡るKIITOの旅～ 全14回<br>→9/1 ショーイング「ダンスで巡るKIITOの旅」鑑賞ツアー、アフタートーク<br>6/26-11/10 神戸スタディーズ #2「地一質からみる神戸」全4回<br>6/27-9/5 +クリエイティブゼミ vol.6 Body Tuning～KIITOからだゼミ～全10回<br>6/28 神戸料理フォーラム vol.2「琉球弧の在来と生きる」   |
| 6月<br>Jun.  | 7/9 +クリエイティブ普及セミナー「平成25年度神戸市課長昇任時研修」<br>7/14・15 未来のかけらラボ vol.2 ~パッシブデザイン再考~<br>7/22-10/1 +クリエイティブゼミ vol.7 「神戸発：日常的にも活用される津波避難情報板を企画する」全10回<br>→7/22 特別講座「避難する人が「主役」になる津波避難訓練づくり」<br>→8/5 特別講座「伝える、伝わる、つなぐデザイン」<br>7/31-1/30 キトイナイト<br>→7/31 キトイナイト1 映画部<br>→9/6 キトイナイト2 映画部<br>→12/17 キトイナイト3 映画部<br>→1/30 キトイナイト4 映画部   |
| 7月<br>Jul.  | 8/2-8/3 オールドタウン「高尾尾TOD'13 防災キャンプ」<br>8/10 ちびっこベシリーズ 建築ワークショップ<br>夢のお店をつくろう！「ユメミセ。」<br>8/11 ちびっこベシリーズ デザインワークショップ<br>ちびっこカフェデザイナー カラフルエプロン  |
| 8月<br>Aug.  | 9/7 +クリエイティブワークショップ 新！編集を学ぶかべ新聞部<br>9/14-9/15 レッドベアサイバーリング「火育サバイバルキャンプ 2013」<br>9/14-3/16 KIITOアーティスト・イン・レジデンス 2013<br>濱口竜介 即興演技ワークショップ in Kobe<br>→9/14 「なみのこえ 気仙沼」映画上映会＋濱口竜介×本間直樹<br>トークセッション<br>→9/21 「うたうひと」映画上映会＋ダイアローグ・カフェ<br>～小野和子さんを迎えて～<br>→11/30 ダイアローグ・カフェ Vol.2 翻訳の聞く（イン）、演じる（アウト）<br>→12/21 ダイアローグ・カフェ Vol.3 本と「聞くこと 本との「出会い」<br>→11/18 「音遊びの会」演奏会＋ダイアローグ・カフェ Vol.4 音を<br>遊ぶ空間とは何か<br>→12/15 「濱口竜介 即興演技ワークショップ in Kobe」成果発表<br>自分が誰なのか言ってごらん？<br>→2/23 ダイアローグ・カフェ Vol.5 声を「聞く」～誰の？どうやって？<br>→3/16 濱口竜介レクチャー「カメラの前で演じること」<br>KIITalk 「のんびり」の作り方<br>～地方から、ニッポンの未来を提案する方法～ |
| 9月<br>Sep.  | 9/21   |
| 10月<br>Oct. | 11/1-11/30 神戸PANPO<br>11/14-1/12 デザイン・トークイベント「Designers」<br>→11/14 Designers 01 両見英世<br>→11/29 Designers 02 小沢朋子<br>→11/10 Designers 03 岡崎智弘<br>→11/12 Designers 04 立花文乃<br>→11/12 Designers 05 松尾加菜子<br>11/15 KIITO PARTY 「喜怒哀楽」日本食と花とで彩る交流イベント<br>11/15-12/1 第8回 金の卵オースター・デザインショーケース KIITO巡回展<br>→11/22 トークイベント「産学協同／地域連携 一現場で育て未来のチカラ」<br>11/16 セルフ・ビルト・ワークショップ 生意氣とつくるKIITOの庭～なかにわなま～<br>→11/17 KIITO中庭でライブ!!!!  |
| 11月<br>Nov. | 12/6 KIITO CAFE OPENING PARTY 料理と音楽でつづる物語一畠からのごちそう<br>12/8 神戸料理フォーラム バンデュース米山雅彦シェフと行く<br>体験ツアー 六甲・弓削牧場編<br>12/15 +クリエイティブブレクチャー「食からはじまる地域づくり、その後」  |
| 2014        | 1/9-1/17 阪神・淡路大震災+クリエイティブタイムライン マッピング<br>プロジェクト 展示<br>1/12 神戸スタディーズ #3「垂直の空間性からみる神戸～大阪湾と播磨灘の水の文化を中心～」<br>+クリエイティブゼミ vol.8 「子ども×ケータイ研究所」全8回<br>1/29 神戸料理フォーラム「幸福な家族は口福な食卓から」  |
| 1月<br>Jan.  | 2/7-3/30 date.KOBE 「date.KOBE FESTA 三宮縁結びスタンプラリー」<br>+クリエイティブブレクチャー「神戸を港から面白くする方法」<br>→2/9-2/15 「Marry Me! 2050 Discovering the Kobe Harborfront」<br>成果発表展<br>2/22・23 未来のかけらラボ vol.3 ～低温スチーミング調理法の可能性～   |
| 2月<br>Feb.  | 3/9 kiiroフェスタ<br>3/22 オープン KIITO<br>→オープンスタジオ<br>→オープン KIITOツア「映画ロケスポットめぐり」「生糸検査<br>機器の使い方」「建築と歴史を知る KIITO のものたり」<br>→ものづくりワークショップ「革のカードケースづくり」「透<br>明水彩でじみを体験しよう！」「笑顔でKURASU花オープ<br>ン KIITO編」「アイシングクッキーづくり」<br>→KIITalk 「KIITOの建物の魅力」<br>→港都神戸グランドデザイン、+クリエイティブと KIITO、フリー<br>バー + ZINE ミニフェス、slit bar、hardt ブレッドプロジェクト、濱<br>口竜介監督映画上映「THE DEPTHS」「親密さ(short version)」、レッ<br>ドベアサイバーリング「キャンプクラブが中庭に登場！」、交流パーティー<br>ちびっこベシリーズカフェワークショップちびっこカフェ店員になろう！<br>東灘区社会福祉協議会「omusubi」発行   |
| 3月<br>Mar.  | 3/28<br>3/31   |

# 2



## プロジェクト Projects

- EARTH MANUAL PROJECT 展
- デザインで解決する
- きく
- はなす
- つくる
- ふれる
- あじわう
- 神戸へ
- ネットワーク

## ○ ちびっこうべ Chibikkobe

子どものまちは、神戸の未来。「シェフ」「建築家」「デザイナー」の3つの職業に分かれて、神戸の子どもたちとそれぞれの分野のクリエイターたちがワークショップ形式で一緒に夢の店づくり、まちづくりを行う体験プログラムです。まちづくりプログラムの他に「ちびっこうべシリーズ」では、子どもたちの創造力を育むための様々なワークショップを実施します。

A dream town built by Kobe's children and creators working together. Children were split into three groups, each categorized as professional occupations, namely 'architects', 'designers', and 'chefs'. The children in the three groups were taught and guided by 'creators', (professionals from each respective occupation) and then invited to use their newly acquired skills to create fifteen "dream shops" from scratch. Other than this town-making program, the Chibikkobe series includes various workshops intended to cultivate children's creativity.

## ○ 「+クリエイティブ」国際展覧会 +Creative International Exhibition

防災、医療、福祉、教育など世界的な社会的課題をテーマに、それを解決する+クリエイティブなアイデアを国内、海外から収集し、展覧会を行います。各国から集まった+クリエイティブなアイデアや作品のアーカイブも行います。

Taking as its themes various issues on the global social agenda such as 'disaster preparedness', 'medical care', 'welfare' and 'education', KIIITO collects +Creative ideas for solving such problems. The ideas are drawn from both Japan and overseas, then showcased together in the form of an exhibition. On top of this, we are compiling an archive of +Creative ideas and works gathered from around the world.

## ○ +クリエイティブゼミ +Creative Seminar

社会的な課題に対して、+クリエイティブなアプローチで解決する手法を、小グループでディスカッションを行い、ゼミ形式で学ぶプログラム。解決への方策を導き出すプロセスを通じて+クリエイティブを実践する場を提供します。

A human resource development program to combat social problems through the power of creativity. This is a program in which project teams comprised of citizens; develop solutions for tackling various kinds of social problem through research, regular discussion and brainstorming under different themes. Through this process they have put forward some substantial proposals by tapping the power of creativity for design and new ideas.

## ○ MUJI+クリエイティブゼミ Found MUJI 神戸

### MUJI + Creative Seminars - Found MUJI Kobe

無印良品のFound MUJIの活動を、神戸で行う試みです。もの、文化、歴史など多角的な視点でアプローチし、神戸の新たな魅力を発見します。約1年かけて、リサーチ、アイデア展開、アウトプットまでを行い、成果物は商品化、展示、販売を目指します。

These seminars represent an attempt by MUJI (Ryohin Keikaku Co., Ltd.) to conduct its Found MUJI activities in Kobe. The brand is aiming to uncover new aspects of the city's charm through a multidirectional approach involving goods, culture, history, etc. Over the course of about a year, the program moves from research to idea development and output, while targeting eventual commercial production, exhibition and sale.

## ○ 未来のかけらラボ

### Mirai no Kakerla Lab (Pieces of the Future Lab)

混沌を深める現代社会に対して、センター長の芹沢高志をモデレーターに、身近に散らばる多様な未来のかけら、つまり可能性の芽を拾い集め、草の根的に自分たちの未来を思い描こうとする実験的な試みです。

With modern society in states of increasing chaos, this lab is an experimental attempt to visualize our own future in a grass roots manner by picking up on various "pieces of the future", or in other words, the buds of future potential that exist all around us. Our Center's director Takashi Serizawa acts as Moderator.

## ○ +クリエイティブルクチャー& ワークショップ

### +Creative Lectures and Workshops

デザイン、まちづくり、アートなど様々な分野から+クリエイティブ的な視点で活動を実践する、多彩な方々を講師に迎えます。定期的に開催する講義形式や体験型のイベントです。

Periodically KIIITO hosts +Creative Lectures and Workshops that bring together very different kinds of people who take an approach to their work that exemplifies the +Creative viewpoint in a variety of fields such as design, urban development and art. These are in the form of either lecture-style or experience-style events.

## ○ 神戸「食」プロジェクト

### Kobe "Cuisine" Project

食を本質から問い直し、職人はもちろん生産者や消費者とともに、神戸の食を考え、発信する場です。食のフィールドを超えての交流や活動が立ち上ります。

Here is a forum where culinary professionals, food producers and consumers get together to re-examine food from its essentials, discuss food cuisine relating to Kobe, and share the results beyond the Forum. In addition, the groups are starting initiatives and exchanges that extend beyond the standard understanding of food.

## ○ ものづくりワークショップ

### Monozukuri Workshop (Manufacturing Workshop)

昔ながらの知恵や、受け継がれてきた技を学びながら、ものづくりの本質を知り、体験する場です。日常生活にちりばめられた+クリエイティブを発見し、新たな視点が生まれることを目指します。

Here is a place where people can familiarize themselves with the essentials of manufacturing and gain hands-on experience while learning time-honored wisdom and techniques handed down from the past. In addition, the workshop aims at helping to discover +Creative elements in daily life and to generate new viewpoints.

## ○ KIIITO アーティスト・イン・レジデンス

### KIIITO Artist in Residence

アーティストにKIIITOのスペースをスタジオとして提供、滞在制作を行います。神戸のまちのリサーチや人々との交流に重点を置く作家を招聘。アーティストの視点で、新たな神戸の発見や再解釈を行い、作品として可視化します。

KIIITO provides studio spaces where artists can stay for an extended period and work on their creations. We invite artists focusing their efforts on Kobe-related research and who will interact with the people of the city. These artists in residence are discovering a new Kobe or reinterpreting the city from an artist's viewpoint which they visualize in their work.

## ○ セルフ・ビルト・ワークショップ

### Self-build Workshop

クリエイターをナビゲーターとして招き、KIIITOの空間の有効な使い方にについて意見交換し、実現のためのワークショップを行います。施設の環境に変化を及ぼすことで、より魅力的な空間にしていくことを目指します。

This is an initiative that seeks to invite artist creators to serve as navigators and exchange ideas on how to use the spaces that KIIITO has more effectively. The 'Self-build Workshop' is held to put the ideas into practice. Ultimately, the aim is to enhance the environment and attractiveness of KIIITO and its facilities.

## ○ 神戸スタディーズ

### Kobe Studies

歴史学、地理学、生態学、文化人類学、アートなど領域横断的に多彩な講師を招き、今までに無い視点で神戸を見る「神戸学」をつくる試みです。フィールドワークや作業などのワーキングを取り入れ、多方面から神戸研究を行います。

This is an attempt to create a "Kobeology" - a discipline for looking at Kobe from unconventional viewpoints. We invite lecturers from a host of fields including history, geography, ecology, anthropology and art in a cross-disciplinary manner. KIIITO's Kobe studies are conducted from a multifaceted approach that includes fieldwork and practical work.

## ○ Meets + Design

### Meets + Design

クリエイティブな活動やデザインに身边に触れる機会を提供するパーティー形式のイベントを開催。シェフやデザイナーが「食」と「空間」をプロデュースし、新たな出会いや異分野のクリエイターの交流を創出します。

These events are held in a party style format to provide people with opportunities to link more closely with creative activities and design. Chefs and designers produce 'cuisine' and 'space' concepts that help create new encounters and dialogue among creators working in different fields.

## ○ KIIITalk

### KIIITalk

多様なジャンルのクリエイター、学生、クリエイティブラボの入居者が、デザインや想い、アイデアをプレゼンテーションするイベント。クリエイティブな分野の人々の新たな連携やプロジェクトが生み出されるきっかけを創ります。

KIIITalk is an event for creators and students working in a wide range of genres and for creative lab residents to present their designs, thoughts and ideas. In so doing, they generate new opportunities to establish partnerships and projects between people working in creative fields.

## ○ オープン KIIITO

### Open KIIITO

クリエイティブラボの公開や館内のツアーを行う「オープン KIIITO」、KIIITOに関わるクリエイターと人々をつなぐマーケット「KIIITO マルシェ」を開催。KIIITOを知り、クリエイティブな活動にふれる機会をつくり、館内外の交流を促進します。

'Open KIIITO' refers to the holding of open days for people to tour the Creative Lab Space and 'KIIITO Marché', a market to connect KIIITO related creators with other people. This is an opportunity for everybody to get to know KIIITO, experience its creative activities and enhance communications within and outside the design center.

## ○ 阪神・淡路大震災 +クリエイティブ

### タイムライン マッピング プロジェクト

The Great Hanshin Awaji Earthquake +Creative Timeline Mapping Project

被災地でのクリエイティブ分野の支援活動をリサーチし、ウェブ上で時間軸に落とし込んだアーカイブを公開するプロジェクトです。現在の復興支援活動や、今後起こりうる災害時に、クリエイターがどう寄り添うのか、その支援活動の一つの指針を示します。http://tm19950117.jp/

This is research project to investigate creative-oriented support activities for disaster areas on the website. We suggest how creators can empathize more closely with disaster area as well as different types of activity they may be able to carry out in situations following future disasters. http://tm19950117.jp/

↓ EARTH MANUAL PROJECT 展



## 災害大国は、 防災大国に、なれる。

自然災害が、ふえている。  
そのことから目をそむけずに、希望をもって、防災を考える人がふえています。  
「EARTH MANUAL PROJECT」は、世界各地のすぐれた防災活動を集め、  
未来に活かすプロジェクト。そこには、この問題と真摯に向き合う建築家やデザイナー、  
アーティストたちがいます。彼らの自由な発想や、取り組む姿勢、ピュアな想いを、  
もっと世界中に伝えたい。そのための最初の一歩が「EARTH MANUAL PROJECT 展」です。  
神戸や東北をはじめ、インドネシア、タイ、フィリピンなど、  
災害多発国のクリエイティビティあふれる防災活動を紹介。  
それは展示だけでなく、見る人それぞれが自分の防災マニュアルをつくっていくための展覧会。  
海外のクリエイターから話を聞いたり、ノウハウを学べるワークショップも開催します。  
防災の情報やアイデアを、国境を越えて共有し、連携し、  
教えあうプロジェクトが、この秋、神戸から動き出します。  
この星の防災は、想いを伝えあうことからはじまる。  
**EARTH MANUAL PROJECT 展**

### A Country of Frequent Natural Disasters

### Can Also Become a Country of High Disaster Preparedness.

The impact of natural disasters is sadly increasing in scale. Fortunately, the number of people pro-actively thinking about disaster preparedness and remaining ever-conscious of the possibility of disasters is increasing as well. The EARTH MANUAL PROJECT is aimed at gathering examples of excellent disaster preparedness activities from all over the world and putting them to positive future use.

These excellent activities are supported by architects, designers and artists who are sincerely addressing the agenda of disaster preparedness.

The Organizers want to convey to the world their free thinking, purity of feeling and attitudes to tackling this important subject. The first step in realizing this goal is to hold the EARTH MANUAL PROJECT Exhibition.

In this exhibition, several highly creative disaster preparedness activities will be introduced from other countries such as Indonesia, Thailand, the Philippines, etc. (countries that frequently have to deal with natural disasters), as well as from Kobe and Tohoku in Japan.

At the same time, this is not just an exhibition but also an opportunity for each visitor to make their own manual and for workshop audiences to hear stories and expertise from overseas creators.

This project for sharing disaster preparedness information and ideas beyond national frontiers and to cooperate and learn from each other will launch in Kobe this coming autumn.

**Disaster preparedness on our planet begins by exchanging ideas.**

The EARTH MANUAL PROJECT Exhibition

# EARTH MANUAL PROJECT 展



### EARTH MANUAL PROJECT



## EARTH MANUAL PROJECT 展

→ 10/4(Fri) - 10/24(Thu)



各国の「+クリエイティブ」な視点を持つ防災・災害対応・復興支援に関する活動をリサーチし、特に優れた国内14活動、海外9活動を選出。クリエイターたちの思いや活動のプロセス、成果や課題を詳しく紹介する展示を行った。各プロジェクトの展示ブースでは、活動の概要が書かれたマニュアルを設

置し、自由に持ち帰れるように。展示会場では、食糧備蓄、機能性とデザイン性を兼ね備える防災関連商品、クリエイターが関わる復興支援商品などを販売する「防災グッズセレクトショップ」が併設された。なお、会期中には以下の様々なイベント、ワークショップも開催。

→ 10/4(Fri)  
オープニング・レセプション

→ 10/5(Sat) - 6(Sun)  
世界のTAKIDASHI キッチン

→ 10/5(Sat)  
ゲームで社会課題に挑む -Save the World with GAME-

→ 10/5(Sat) - 6(Sun)  
アートによる心のケア "heARTS"  
担い手養成ワークショップ

→ 10/6(Sun)  
フィリピンのアーティスト・アルマさんによる  
アートで親子コミュニケーション ワークショップ

→ 10/8(Tue) - 13(Sun)  
遊びながら学ぶ 地震ゲームを作る  
デザインワークショップ

→ 10/11(Fri)  
レッツ! サバイバル  
—「アイデアと工夫」というデザインで、生きろ世界。—

→ 10/12(Sat) - 13(Sun)  
レッツ! サバイバル ワークショップ

→ 10/14(Mon)  
防災ゲーム大会

→ 10/16(Wed), 17(Thu), 18(Fri)  
コミュニティ・アーキテクト イカプトラ  
三夜連続レクチャー  
第一夜：住み続けながら拡張する復興住宅「コアハウス」  
第二夜：クリエイターは復興期の被災地とどのように  
関わっていくべきか  
第三夜：国境を越えて、BOSAIを地域に根付かせる試み  
～イザ!カエルキャラバン!の事例から学ぶ～

→ 10/19(Sat) - 20(Sun)  
イザ! カエルキャラバン! in KIITO

→ 10/8(Tue) - 10/13(Sun)



### ○ 講師 Instructor

ラッティゴーン・ウッティゴーン(ゲームデザイナー)  
Ruttikorn Vuttikorn (Game Designer)

### ○ ゲスト Guest

吉川肇子 (慶應義塾大学教授)  
Toshiko Kikkawa (Professor, Keio University)

世界各地でゲーム作りワークショップを実施してきたウッティゴーンを講師に、「地震」「津波」をテーマにしたゲーム開発をワークショップ形式で実施。参加者たちは4つのグループに分かれ、ゲームのストーリーを制作し、進行やルールを確認。グループで試行と改良を重ね、完成させた。最終日には講師と防災ゲームの第一人者、吉川肇子による講評を行った。本ワークショップで開発したゲームのデモ版は、10/14 (mon) に開催された「防災ゲーム大会」で子どもたちに体験してもらうことで、遊びやすさやテーマがしっかりと伝わっているかどうかを検証した。



→ 10/5(Sat)  
ゲームで社会課題に挑む  
-Save the World with GAME-

○ 講師 Instructor  
ラッティゴーン・ウッティゴーン (ゲームデザイナー)  
Ruttikorn Vuttikorn (Game Designer)

ウッティゴーンが、社会課題解決の本質は「人そのものを変えることである」という考えに至り、ゲーム開発に携わるまでの自身の経験を、自作のムービーを用いて紹介。会場には、ウッティゴーン開発のゲームを含む、おすすめのゲームが並べられ、一つ一つ解説を交えながら、ゲームの遊び方を詳しく紹介した。



# アートによる心のケア “heARTS”、想い手養成ワークショップ

→ 10/5(Sat) - 10/6(Sun)



## ○ 講師 Instructor

アルマ・キント (アーティスト)  
Alma Quinto (Artist)

アートを通じたトラウマヒーリングのトレーニングワークショップの手法 “heARTS” を提唱するアルマ・キント。“heARTS” とは「healing through the ARTS」の略で、アート制作を通して、虐待や自然災害で受けたトラウマに向き合い、生きる力を引き出す取り組みを続けている。ワークショップでは、画用紙に何も考えず点を打ち、点同士を繋ぎその人自身を表す絵を描く「ドットコネクト」などのワークを行い、最後には共同作業でパッチワークの旗を作成した。すべてのワークを通じて、参加者は個々人が持つ生きる力を引き出す講師の手法を学び、体験することとなった。

→ 10/6(Sun)

フィリピンのアーティスト・アルマさんによるアートで親子コミュニケーションワークショップ

## ○ 講師 Instructor

アルマ・キント(アーティスト)

自身の力の源や大切にしていることを表現する「パワーカード」を、親子と “heARTS” ワークショップ参加者がチームになり制作。“heARTS” ワークショップ参加者にとっては、講師から学んだことをファシリテーターとして実践する機会ともなった。



→ 10/12(Sat) - 10/13(Sun)



## ○ 協力 Cooperation

ヴィパーイー・クナーウィチャヤーノン、京都造形芸術大学大学院坂茂研究室、早稲田大学理工学院建築学科古谷誠章研究室、神戸芸術工科大学基礎教育センター久富敏明研究室+学生有志、レッドベアサバイバルキャンプクラブ  
Vipavee Kunavichayanont, Kyoto University of Art and Design Shigeru Ban Research Room, Waseda University Faculty of Science and Engineering Nobuaki Furuya Research Room, Kobe Design University Basic Education Center Toshiaki Hisatomi Research Room + student volunteers, Red Bear Survival Camp Club

災害時に身の回りの物を活用し、生き残るために知識や技を習得するワークショップを開催。Tシャツとペットボトルを使用した浮具づくりなどの洪水の際に身を守る方法や、避難する際の足の保護道具、ロープワーク、紙食器づくり、3つのタイプの避難所の間仕切り方などを講師の指導の下、体験した。



→ 10/11(Fri)

レッツ! サバイバル

- 「アイデアと工夫」というデザインで、生きろ世界。 -

## ○ 講師 Instructor

ヴィパーイー・クナーウィチャヤーノン (Design for Disasters 共同創設者)、永田宏和 (デザイン・クリエイティブセンター神戸副センター長)

Vipavee Kunavichayanont (Representative of the Design for Disaster), Hirokazu Nagata (Vice Director of the Design and Creative Center Kobe)

デザイン・フォー・ディザスターズ (タイ) のヴィパーイー・クナーウィチャヤーノンと永田宏和がそれぞれ展開している防災教育、防災技術普及分野の活動を紹介。その後の意見交換では、デザイン・フォー・ディザスターズの防災教育プログラムを、永田が行うレッドベア・サバイバルキャンプのシステムを用いて開催、市民に普及する計画が発案され、タイにおける新しい防災教育プロジェクトの開発につながった。

# アート・デザイン・アーキテクチャ・イカプトラ 三夜連続レクチャー

→ 10/16(Wed) - 10/18(Fri)



インドネシアで災害へのクリエイティブなアプローチを続ける建築家・イカプトラの多岐にわたる活動を三夜連続で紹介。



→ 10/16(Wed)

第一夜：住み続けながら拡張する復興住宅  
「コアハウス」

○ 講師 Instructor

イカプトラ（建築家）、曾我部昌史（建築家）  
Ikaputra (Architect), Masashi Sogabe (Architect)

インドネシアのカソンガン村とケブンアゲン村での2つのコアハウス取り組み事例をイカプトラが紹介。コアハウスとは、災害で住宅が倒壊した被災者に対し、核となる必要最小限の住宅を作り、その居住者が徐々に建て増していくことで、住宅と地域を復興させる考え方のこと。曾我部昌史は、東日本大震災の被災地におけるコアハウスの事例を紹介。ディスカッションでは、コアハウスを日本で普及させるための法的、経済的な課題と、コミュニティを持続させることができることのシステムの日本での可能性が示された。

→ 10/17(Thu)

第二夜：クリエイターは復興期の被災地と  
どのように関わっていくべきか

○ 講師 Instructor

イカプトラ（建築家）、高津玉枝（株式会社福市代表取締役）  
Ikaputra (Architect), Tamae Takatsu (Representative Director  
Fukuichi Co., Ltd.)

2006年のジャワ島中部地震で被災したインドネシアのコタゲデ村において、イカプトラが行った地域産業復興支援の取り組みを紹介。また、高津玉枝は東日本大震災の被災地で手仕事を創り、商品の制作販売で被災地を支える「EAST LOOPプロジェクト」を立ち上げた経緯と現状、課題について説明して、その後、両者によるディスカッションが行われた。

→ 10/18(Fri)

第三夜：国境を越えて、  
BOSAIを地域に根付かせる試み  
～イザ！カエルキャラバンの事例から学ぶ～

○ 講師 Instructor

イカプトラ（建築家）、永田宏和（デザイン・クリエイティブセンター神戸副センター長）  
Ikaputra (Architect), Hirokazu Nagata (Vice Director of Design and Creative Center Kobe)

永田宏和は、神戸発のファミリー向け防災訓練プログラム「イザ！カエルキャラバン！」の概要紹介と普及のための取り組みについて解説。次にイカプトラが、「イザ！カエルキャラバン！」のインドネシアでの展開、普及の経緯を紹介。また、神戸の防災福祉コミュニティをBOKOMIとしてインドネシアに紹介し、同地で根付いてきていることも合わせて紹介された。

→ 10/4(Fri)



→ 10/5(Sat) - 10/6(Sun)

- 出店
- サ・マーシュ（パン）
- バティスリーモンブリュ（洋菓子店）
- Liang You 良友（中華料理店）
- 鳥忠（鶏肉店）
- 韓八商店（韓国料理・惣菜店）
- ロットディー（タイ料理）
- ハーロン（ベトナム料理店）
- アールティー（インド料理店）



→ 10/19(Sat) - 10/20(Sun)



## 子育て支援編「子育て支援」パワーアッププロジェクト

↓ デザインで解決する

→ 5/7(Tue) - 7/9(Tue)

→ 全 10回



### ○ 講師 Instructor

永田宏和（デザイン・クリエイティブセンター  
神戸副センター長）  
Hirokazu Nagata (Vice Director of the Design and Creative Center Kobe)

### ○ 協力 Cooperation

神戸市こども家庭局  
Child and Family Bureau, City of Kobe

子育て経験の有無を問わず、新たな子育て支援策の創出を目指したゼミ。神戸市こども家庭局や子育て支援団体「NPO 法人 ウィズネイチャー」、KOBE 子育てネットからの基調レクチャーをもとに、子育て支援の新たな施策を 5 チームに分かれ検討した。最終発表会では、支援資格や、子ども新聞を通した地域コミュニティ形成、子育て情報を手に入れるためのメディア利用といった提案があった。ゼミ終了後は、それらの提案をもとに、「kiiro project」「全力カラジオ」といった継続的な活動が展開されている。



→ 5/28(Tue)

### 特別講座

「ソーシャルメディアと地域コミュニティ」

○ 講師 Instructor  
佐々木博（メディアアファシリテーター）  
Hiroshi Sasaki (Media facilitator)

SNS を利用したコミュニティの在り方を考える佐々木博がソーシャルメディアから生まれる地域コミュニティと子育て支援への活用について講義。ゼミ受講生で議論されていました、情報発信不足と SNS 利用度による情報格差について考える参考となった。

### 「kiiro project」について

ゼミ参加者を中心とし、子育て支援プログラムを実践して、各活動団体間のネットワークや地域との連携を深め、すでにある子育て支援の情報を伝えることを目的としてスタート。3/9(Sun) には「kiiro フェスタ」を開催し、神戸ハーバーランド umie にて、親子で楽しく参加できるプログラムを実施した。



## 「神戸発・日常的にも活用される津波避難情報板を企画する」

防災 + まちづくり + 観光編

## +クリエイティブセミナー vol.5 デザイン編 「デザイナーの次のかたち」

→ 6/21(Fri) - 8/30(Fri)



→全10回



### ○ 講師 Instructor

#### サノワタル（プロデューサー）

Wataru Sano (Producer)

デザインの多様化に対応できるように、「コミュニケーション」「企画」「プロセス」について、講義と実習を組み合わせて開講。実際のクライアントから提出された案件を課題とし、最終回のプレゼンテーションも担当者の前で行うなど、実践的な内容となった。デザイナー育成の場であり、ネットワークの構築、またデザイナーと社会をつなぐ場としても機能した。



→ 7/5(Fri)

### 特別講座

#### サノワタル×熊野森人トークセッション 「企画とデザインの繋ぎ方」

### ○ 講師 Instructor

サノワタル（プロデューサー）、熊野森人（クリエイティブディレクター）

Wataru Sano (Producer), Morihito Kumano (Creative Director)

多様な活動を行う eredie2・クリエイティブディレクターの熊野森人をゲストに迎え、企画の考え方、拡げ方、デザインへの繋ぎ方などが話された。デザイナーとしてのネットワークを広げるための交流会もあわせて開催。



→ 7/22(Mon) - 10/1(Tue)



→全10回

### ○ 講師 Instructor

#### 永田宏和（デザイン・クリエイティブセンター神戸副センター長）

Hirokazu Nagata (Vice Director of the Design and Creative Center Kobe)

神戸市の津波想定は、最大4mに見直され、防潮堤を越えて居住地区まで押し寄せる想定となっている。そこで神戸市危機管理室と連携して、日常的に利用され、災害時にもより機能する「津波避難情報板」のあり方を導きだすことを目的に開講した。

ゼミでは、専門家を招いたレクチャーや先進事例調査、対象エリアのフィールドワークを行った。最終発表会では、鳥瞰図や立体マップを使って、避難方向が一目でわかる情報板の設置、街の防災についての人材育成制度、既存の看板をラッピングし、子どもに目を向けるなどの提案があった。ゼミ終了後も「津波避難情報板」設置に向け、継続して議論が進められている。



→ 7/22(Mon)

特別講座 「避難する人が「主役」になる津波避難訓練づくり」

### ○ 講師 Instructor

矢守克也（京都大学防災研究所巨大災害研究センター）  
Katsuya Yamori (Research Center for Disaster Reduction Systems, Disaster Prevention Research Institute Kyoto University)

全国で津波防災教育を行っている矢守克也が、津波避難の施設整備や、避難する際に自らの力で状況をどのように乗り切るかを自主的に考える先行事例について講義した。



→ 8/5(Mon)

特別講座 「伝える、伝わる、つなぐデザイン」

### ○ 講師 Instructor

木村博之（デザイナー）

Hiroyuki Kimura (Designer)

インフォグラフィックスを専門とする木村博之が、情報には「観察」「リサーチ」「インタビュー」の3つがなければ伝わらないこと、さらに、情報を伝えるだけではなく、伝えて次の行動を生むことが大切であることを解説した。

# +クリエイティブ・コンサルティング

Creative Consulting

## +Creative Seminar

### 教育（メディアアリトラシー）編「これも×ケータイ研究所」

→ 1/14(Tue) - 3/6(Thu)



→全8回

神戸市の各部局や事業者から寄せられた社会的な課題に対して、当センターの企画事業のテーマとして取り上げ、解決の糸口を模索する企画の提案、プロジェクト化、事業化を図り、課題解決のための支援を行った。



#### ○ 講師 Instructor

**永田宏和（デザイン・クリエイティブセンター  
神戸副センター長）**

Hirokazu Nagata (Vice Director of the Design and Creative Center Kobe)

子どもと携帯電話について、各自の興味からリサーチを始め、毎回調査状況を共有した。ゼミ生は、他施設で行われているセミナーや講演にも積極的に参加して、情報を集めた。研究成果発表では、情報が届いていない乳幼児の保護者へのアプローチや、学校行事として保護者まで対象とした教育や指導、子どもが自ら携帯電話との付き合い方について考える機会をつくるなどのアイデアを発表した。今後もリサーチを続け、研究を深めていく。



#### ○ レッドベアサバイバルキャンプクラブ

親子で学べる避難生活体験プログラムの開発と実践。防災の知恵や技を磨くキャンプや交流を深めるイベントも開催した。



#### ○ date.KOBE プロジェクト

神戸の魅力を「デート」という視点で新たに発掘し、観光の可能性を広げていくというアイデアを実現。



#### ○ 神戸 PANPO

神戸のパンの魅力を発信することを目的に、パンの食べ歩きイベントを実施。ロゴやポスター、専用の紙袋のデザインも。



#### ○ 神戸ミュージアムロード 美かえるカラフルプロジェクト

兵庫県立美術館のオブジェ「美かえる」のカラーパターンを活用した、ミュージアムロード活性化プロジェクトの実践。

#### ○ omusubi プロジェクト

東灘区社会福祉協議会の広報紙をリニューアルし「omusubi」として地域のシニア世代と甲南大学の学生とで編集を行い発行。企画・制作に協力。

#### ○ チャイルド・ケモ・ハウス チャリティーウォーク 2013

小児がん専門治療施設チャイルド・ケモ・ハウスをより多くの市民に周知するため、チャリティーウォークを実施。支援金 1,150,625 円を集めた。



#### ○ 高尾台 TOD'13 防災キャンプ

高尾台の子どもたちを対象とした夏のキャンプ。夏休みの宿題である自由研究をキャンプの体験を通して行い、最後は親を含めた住民に向けて発表した。

# Mirai no Kakera Lab (Pieces of the Future Lab)

## 未来のかけら「ボ」vol.3 低溫スチーミング調理法の可能性

→ 7/14(Sun) - 7/15(Mon)



→全3回

### ○ 講師 Instructor

末武純子 (建築家)  
Junko Suetake (Architect)

### ○ モデレーター Moderator

芹沢 高志 (デザイン・クリエイティブセンター  
神戸センター長)  
Takashi Serizawa (Executive Director of the Design and Creative Center Kobe)



→ 7/14(Sun)

### レクチャー 1 パッシブデザインとは何か

「パッシブデザイン」についての歴史的背景も含めた概説が行われた。現代では、建物を密閉して外界と遮断することで、建物内の環境を保っているため、多量のエネルギーを消費しており、また設置とメンテナンスなどに労力が必要である。パッシブデザインは、そのような現状に対し、日光や風、熱さ、寒さなど、建築を取り巻く外的な環境である自然を建物に取り入れる設計手法である。レクチャーの後は、学生や建築関係者などからの質問があり、双方向の場が作りだされた。

→ 7/14(Sun)

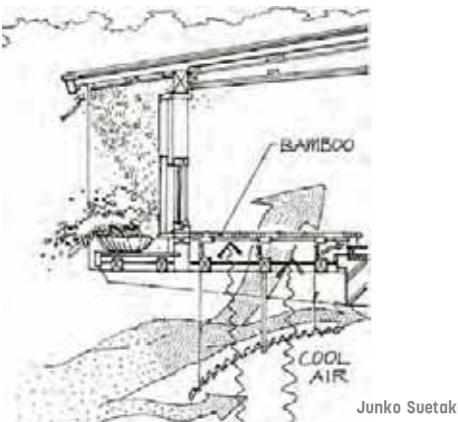
### レクチャー 2 事例紹介と今後の展望

パッシブ建築の実例について、建築家の末武純子が国内外の事例を紹介。日本では、藤井厚二設計の聴竹居が代表的なものとして挙げられた。また、末武自身も関わったロンドンのアンソーン アーキテクトによる Eco-Hub は、身近な材料である「わら」で出来たブロックを壁に使用しているストローベイル・ハウス。レクチャーでは、実際に Eco-Hub をセルフビルトしている様子も写真スライドで紹介された。

→ 7/15(Mon)

### トークセッション パッシブデザインとわたしたちの未来

講師とモデレーターによるトークセッションに、参加者も交えて議論がされた。ソーラーエネルギーなどの代替エネルギー案自体がそもそも「アクティブ」が前提となっている。そうではない選択肢もあってもいいのではないだろうか。



Junko Suetake

→ 2/22(Sat) - 2/23(Sun)

→全3回



### ○ 講師 Instructor

安波治子 (スチーミング調理技術研究会  
チーフインストラクター)  
Haruko Yasunami

### ○ モデレーター Moderator

芹沢 高志 (デザイン・クリエイティブセンター  
神戸センター長)  
Takashi Serizawa (Executive Director of the Design and Creative Center Kobe)



→ 2/22(Sat)

### レクチャー

別府市鉄輪を拠点にギャラリーやイベントを運営しながら、「低温スチーミング」調理法を実践している安波治子を招いてレクチャーを行った。「低温スチーミング」は、食材の酵素が活性化し旨みが増すだけでなく、保存性が高まるというもの。また、その前段階の下ごしらえとなる「50℃洗い」は、食材を50℃の湯で洗うことで、鮮度が長く保たれるだけではなく、ワックスや農薬、虫、汚れが落ち、肉・魚類は余分な油が落ちることが紹介された。



→ 2/22(Sat)

### デモンストレーション

講座で紹介した「低温スチーミング」「50℃洗い」について、水菜、玉ねぎ、シタケ、サバ、鶏肉を使って調理デモンストレーションを行った。デモンストレーション後の試食では、色の鮮やかさや食感といった、食材が本来持つ特徴を増幅させることができることが確認され、参加者からは多くの質問も寄せられた。



→ 2/23(Sun)

### トークセッション

別府市鉄輪の老舗旅館「富士屋旅館」の再生工事や、別府石を用いた石垣や石畳の保存にも力を入れている講師・安波治子の活動にも触れながら、「温故知新」の重要性や、それらを実践していく上でのジレンマについてのトークセッションとなった。「低温スチーミング」のように、参加者一人ひとりが実践できることから始め、その成果を理論に還元する意義についても言及された。

→全5回

→ 11/14(Thu) - 1/12(Sun)



## ○ レコメンダー Recommender

高橋孝治 (プロダクトデザイナー)

Koji Takahashi (Product Designer)

デザインゼミの新しい形式として実験的に開催。「デザインを体感する」をテーマに、第一線のデザイナーを講師に迎え、仕事の紹介やデザインに対する考え方など聞き出す機会となった。



→ 11/14(Thu)

## Designers 01

## ○ 講師 Instructor

両見英世 (タイプデザイナー)

Hideyo Ryoken (Type designer)

タイプデザインという「文字のデザイン」を通して、デザイナーの活動領域を広げていくことについて。「濱明朝体(仮)」「都市フォントプロジェクト」「かたりべ四街道」「四街道子ども記者クラブ」といった活動紹介や、会場からお題として挙げられた漢字1文字のライブデザインも。

→ 11/29(Fri)

## Designers 02

## ○ 講師 Instructor

モコメシ / 小沢朋子 (フードデザイナー)

Mocomeshi / Tomoko Ozawa (Food Designer)

「食べるシチュエーションをデザインする」をコンセプトにした、これまでの活動を紹介。主宰する料理教室「みんなで食べる料理教室」や、インドで出会った実験器具メーカーによる生活道具を販売する「VISION GLASS JP」など、「食」とその周辺環境も含めたデザイン活動についても話された。

→ 1/10(Fri)

## Designers 03

## ○ 講師 Instructor

岡崎智弘 (アートディレクター、グラフィックデザイナー)

Tomohiro Okazaki (Art Director, Graphic Designer)

「人の心が動くデザインを。」をテーマにした、映像プロジェクトやグラフィックデザインの活動を紹介。カメラと四角いモデルを使って、実際にコマ撮りを実演した後、参加者全員でコマ撮り撮影まで行った。

→ 1/12(Sun)

## Designers 04, 05

## ○ 講師 Instructor

立花文乃 (スタイリスト)、松尾加菜子 (ファッショントレーナー)

Ayano Tachibana (Stylist), Kanako Matsuo (Fashion Designer)

立花文乃からは、ミュージシャンのプロモーションビデオでの衣装や、映画の衣装や小物について、松尾加菜子からは、アントワープ王立芸術アカデミー在籍時の作品やイッセイ・ミヤケでのレディースコレクションラインについて、学生時代から現在の仕事までが話された。



## +クリエイティブ・ブレクチャー 「神戸を港から面白くする方法」

+クリエイティブ・ブレクチャー 「食からはじまる地域づくり、その後」

→ 12/15(Sun)



### ○ 講師 Instructor

**奥田政行 (アル・ケッチャーノ オーナーシェフ)  
Masayuki Okuda (Al-Ché-cciano, Owner / Chef)**

山形県庄内にある人気料理店アル・ケッチャーノ、オーナシェフの奥田政行が、食を軸にした地域づくりについて講義した。山形県で起きた無登録農薬問題に対し、「食の都庄内」を掲げて、地域を変えていった活動や、自身が先頭に立って行っている東北支援の活動について話された。

→ 2/9(Sun)



### ○ 講師 Instructor

**入江 経一 (建築家)  
Keiichi Irie (Architect)**

### ○ 協力 Cooperation

**神戸芸術工科大学  
Kobe Design University**

テーマは「どのようにして神戸を面白くするか」。都市をクリエイティブに見直すための先行事例として、神戸と同様にウォーターフロントを持つ、ロンドンとシドニーでの手法が紹介された。その後、神戸芸術工科大学による「Discovering Harborfront Kobe」、情報科学芸術大学学院大学による「チビ電プロジェクト」を例として、都市の場所を物語に関連づけることの重要性、具体的な方法が話された。

→ 2/9(Sun) - 2/15(Sat)

### 「Marry Me! 2050 Discovering the Kobe Harborfront」成果発表展覧会

10月から12月にわたり開催された神戸芸術工科大学のインタラクションデザインプログラム「Marry Me! 2050」と、インタラクションデザイン教育研究所のワークショップ「Discovering the Kobe Harborfront」の成果発表展覧会。(主催: デザイン・クリエイティブセンター神戸、神戸芸術工科大学、情報科学芸術大学学院大学 Organizer: Design and Creative Center Kobe, Kobe Design University, The Institute of Advanced Media Arts and Sciences)



↓  
はなす

→ 4/17(Wed)



○ 講師 Instructor

説田礼子（エルメスジャポン株式会社）、  
棚橋修（建築家）  
Reiko Setsuda (Hermès Japon co., ltd),  
Osamu Tsukihashi (Architect)

○ 協力 Cooperation

エルメスジャポン株式会社  
Hermès Japon co., ltd

エルメスが2011年に設定したブランド・コンセプトは「現代に生きるアルチザン」。これに沿って製作された、エルメスの工房を訪ねた記録映画の上映会。上映後、クリエイティブラボの入居者で、映画に造詣が深い建築家の棚橋修と、エルメス財団の説田礼子とのトークセッションが行われた。棚橋とエルメス財団は、津波で失われた街を模型で復元し、街の記憶を語る「記憶の街ワークショップ」のドキュメントを制作しており、そのプロジェクトについてや他の芸術文化支援も紹介された。



→ 7/31(wed), 9/6(Fri), 12/17(Tue), 1/30(Thu)



→全4回

→ 9/21(Sat)



クリエイティブラボ入居者や市民が集まる場として、映画や映像の上映会とトークを開催。

→ 7/31(Wed) 第1回

○ セレクター Selector

松岡賢太郎 (アートディレクター)  
Kentaro Matsuoka (Art Director)

詩をもとに製作されたフォトストーリー映画を上映。

→ 9/6(Fri) 第2回

○ セレクター Selector

高橋孝治 (プロダクトデザイナー)  
Koji Takahashi (Product Designer)

チャールズ & レイ・イームズの広範な興味を示す、映像11本を紹介。

→ 12/17(Tue) 第3回

○ セレクター Selector

田中健司 (メディアアーティスト)  
Kenji Tanaka (Media Artist)

1980年代に制作された、現代美術作家による実験映像などを上映。

→ 1/30(Thu) 第4回

○ セレクター Selector

野原位 (映画監督)  
Tadashi Nohara (Movie Director)

3つの異なる時代の恋愛を描いた、台湾のオムニバス映画を上映。

○ 出演者 Speaker

県外チーム：藤本智士 (編集者)、堀口 努 (デザイナー)、福田利之 (イラストレーター)

秋田チーム：筈尾千草、田宮慎、渋谷和之、矢吹史子

Outside Akita Team: Satoshi Fujimoto (Editor), Tsutomu Horiguchi (Designer), Toshiyuki Fukuda (Illustrator)  
Akita Team: Chigusa Sasao, Makoto Tamiya, Kazuyuki Shibuya, Fumiko Yabuki

○ 協力 Cooperation

有限会社りす

Cooperation: Re:S inc.

秋田県庁発行のフリーマガジン『のんびり』は、クリエイティブラボ入居者でもある編集者・藤本智士が編集長を務め、秋田のクリエイターと県外クリエイターで制作されている。トークでは、創刊のいきさつや取材の様子が紹介され、取材中の偶然の出会いをもとに、事前の想定を超えた誌面を生み出すという、独特的の制作手法が紐解かれた。また、秋田新幹線の周りで花見大会が催されているような、合成写真かと見紛う表紙写真を例にして、地元住民らと準備を進めて、撮影にいたるまでのメイキングも披露された。



下へ  
る

→ 4/6(Sat), 4/13(Sat)



○ 講師 Instructor

山極博史 (家具デザイナー)  
Hiroshi Yamagiwa (furniture designer)

家具デザイナーの山極博史による指導のもと、カフェ 92m<sup>2</sup>の床を張るというワークショップ。作業を通して、道具や部材の名前、塗料の特徴などが説明され、実際に職人の技を間近で見ながらの、ものづくり体験の場となった。床材はナラ材を使用し、その上に自然塗料の「柿渋」を一度塗りした。



建築ワークショップ 梦のお店をつくるへー「ユメミセ。」  
Monozukuri Workshop / Chibikkobe Series

→ 8/10(Sat)



○ 講師 Instructor

NO ARCHITECTS (建築家)  
NO ARCHITECTS (Architect)

食べ物や服、本など、様々な店について考えることを通して、自分だけの「夢のお店」をかたち=模型にするプログラム。「まなぶじかん」として、講師から世界中の様々な店が紹介され、次に、模型の縮尺である1/10サイズで子どもたちそれぞれが自分の模型を作った。大きな屋根がある帽子屋さん、ネコの形をした文房具屋さん、屋根がかき氷のシロップの色になっているかき氷屋さんといった、多彩な「ユメミセ。」が誕生することとなった。

→ 3/28(Fri)



○ 講師 Instructor

西川功晃 (シェフ)、林 周平 (シェフ)  
Takaaki Nishikawa (Chef), Shuhei Hayashi (Chef)

子どもたちがカフェの店員体験をするワークショップ。参加した子どもたちは、ホール、キッチン、休憩（お客様）の3つの役割に分かれ、厨房では、西川シェフ、林シェフから調理や盛りつけなどを学ぶなどして、カフェの流れをひと通り体験した。8/11 (Sun) の「ちびっこカフェデザイナーになろう」ワークショップで作られた「カラフルエプロン」を身に付けての体験となった。

→ 8/11(Sun)

Monozukuri Workshop / Chibikkobe Series  
デザインワークショップ ちびっこカフェ  
デザイナー カラフルエプロン

○ 講師 Instructor

和田武大 (デザイナー)、井上敦典 (グラフィックデザイナー)  
Takehiro Wada (Designer), Atsunori Inoue (Graphic Designer)

まずは「まなぶじかん」として、ものをつくることだけでなく、使う人のことを考えながら選ぶ作業もデザインであることが説明された。その後、実際にエプロンの使用場所となるカフェを見学。その場所の雰囲気や色、イメージなどを書きだしてから、どのようなエプロンにするのかを考えた。「つくるじかん」では、4つに切り分けられたエプロンのパーツの組み合わせから配色を決め、エプロンを完成させた。



# 新！編集を学ぶかべ新聞部

→ 9/7 (Sat)



○ 講師 Instructor

藤本智士（編集者）  
Satoshi Fujimoto (Editor)



取材、編集会議、原稿執筆、デザインまで、すべてのプロセスを体験し、まちの魅力を伝える壁新聞を1日で制作。参加者は4班に分かれて3時間の取材を行い、それぞれの出会いとアプローチを通して、神戸のまちで出会った人の言葉をまとめ、班ごとに「皆と町かべ新聞」を完成させた。制作したかべ新聞はライブラリで展示された。

→ 11/16 (Sat), 17 (Sun)



○ 講師 Instructor

生意気（アーティスト）  
Namaiki (Artist)

来館者やクリエイティブラボ入居者のコミュニケーションの場として中庭を活用することを目的として、アーティストユニット「生意気」が講師に招かれた。参加者は、土作り、植木作り、苔玉作りなどの作業を共に行いながら、居心地のよい場作りのための発想力や技術を講師に学び、中庭の継続的な活用について意見交換も進められた。その後も、参加者有志で定期的に中庭の掃除を行い、防災プログラムの実践の場としても中庭が活用されるといった成果につながっている。

→ 11/17 (Sun)

KIITO 中庭でライブ !!!!!

○ 出演 Performer

バジルワミー（ミュージシャン）、ウォン・ジクスー（ミュージシャン）、テニスコツ（ミュージシャン）、生意気（アーティスト）  
Bazlwhammy (Musician), Won Jiksoo (Musician), Tenniscoats (Musician), Namaiki (Artist)

KIITO ホールにステージを設け、中庭の緑を舞台美術、背景に取り入れたライブイベントを開催。ホールと中庭は自由に行き来ができるように開放され、中庭はステージやくつろぐための場として使われた。



## +クリエイティブセミナー vol.6 「Body Tuning ~KINTO ハーモニゼーション~」

→全10回

→ 6/27(Thu) - 9/5(Thu)



## ○ 講師 Instructor

小寺麻子（ダンサー）、坂本公成（振付・演出家）  
Asako Kotera (Dancer), Kosei Sakamoto (Choreographer, Director)

## ○ 協力 Cooperation

一般社団法人ダンスアンドエンvironment  
General incorporated association Dance and Environment

ダンスカンパニー、Monochrome Circus の坂本公成と小寺麻子を講師に迎え、「自身の身体」と「環境」を接合し直すことを目指したゼミを開講。ストレッチングやヨガのワークを織り交ぜながら自身の身体と向き合い、コンディションを整え、コンタクト・インプロヴィゼーションの理論を取り入れたワークで、他者の身体と関わり、自身を取り囲む空間やモノを見つめ直す機会となった。



↓  
られる

# 建築とパントムト～ダンスで巡るKIITOの旅～

## +Creative Workshop +クリエイティブワークショップ

→ 6/22(Sat) - 9/1(Sun)

→全14回



### ○ 講師 Instructor

坂本公成（振付・演出家）  
Kosei Sakamoto (Choreographer, Director)

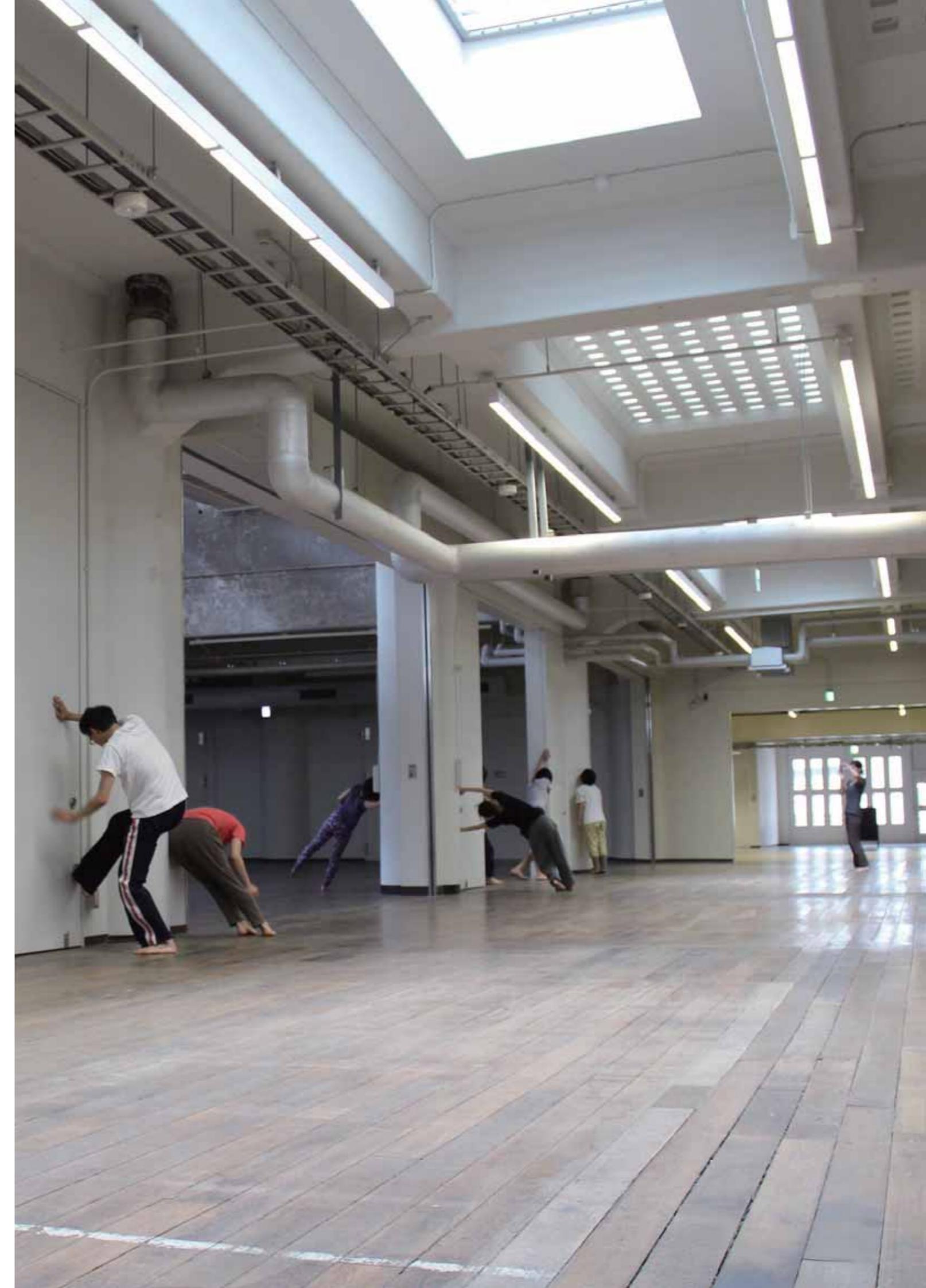
### ○ アシスタント Assistant

小寺麻子（ダンサー）  
Asako Kotera (Dancer)

### ○ 協力 Cooperation

一般社団法人ダンスアンドエンvironment  
General incorporated association Dance and Environment

ワークショップは、コンタクト・インプロヴィゼーション (CI) のワークと、センターの空間や什器等のモノのリサーチ、そして実地でのダンス制作を経て進行した。「ふれる」という行為を通して、「自分や相手の身体の特徴を感じること＝聞くこと」という CI の基礎を共有した後、各空間でのワークを通して、ショーアイングの場所（カフェ北廊下、北玄関、ライブラリ）を決定した。各空間での制作では、試演を通して動きを確認しながら進められた。9/1 (sun) に Monochrome Circus のメンバーとダンスをしながら館内を巡回する様子を公開する「ダンスで巡る KIITO の旅 鑑賞ツアー」を開催。「人」が入ることでの空間の変容や新たな発見を鑑賞者も体験した。終了後には鑑賞者も交えてアフタートークを実施した。



↓あじわう

→ 6/28(Fri)



○ 講師 Instructor

高田勝 (農業生産法人有限会社今帰仁アグー)  
Masaru Takada (Agricultural production corporation Nakijin Agoo Ltd.)

○ モデレーター Moderator

楠田裕彦 (メツゲライクスダ)  
Yasuhiko Kusuda (METZGEREI KUSUDA)

沖縄県で在来豚の今帰仁アグーを飼育している高田勝による講演会。沖縄の文化や儀礼、今帰仁アグーの特徴に加え、歴史的背景から在来豚を残していく重要性について話をうかがった。後半は高田と食肉加工職人の楠田裕彦、副センター長の永田を交えての対談。参加者からは、食を通しての地域づくりや今帰仁アグーの独特な体型に関する質問があった。



# KIITO PARTY 「喜怒哀樂」日本食と花とで彩る交流イベント Meets + Design

→ 11/15(Fri)



## ○ 講師 Instructor

上野直哉（玄斎店主）、にしむらゆき子（フラワーデザイナー・ハーバルセラピスト）  
Naoya Ueno (Owner and head chef of Gensai),  
Yukiko Nishimura (Flower Designer, Herbal Therapist)

日本料理店「玄斎」店主の上野直哉が料理を提供、  
KIITO クリエイティブラボの入居者で「花萌」を主  
宰するフラワーデザイナー、にしむらゆき子が空間  
演出を担当。花や枝、石、和紙などの素材を使って、  
喜怒哀樂の4つの空間が生みだされ、それぞれの感  
情と空間に合わせた料理が並んだ。トークセッション  
では、「哀」のテーマでは目線を下げて気持ちの  
沈む仕掛けや、固く食べづらい食感で「怒」の感  
情を表現する工夫など、演出のアイデアが明かされた。

→ 12/6(Fri)



## ○ 講師 Instructor

岡篤郎（デザイナー／ディレクター／ビデオ  
グラファー）、ウーバレゴーデン  
Tokuro Oka (Designer, Director, Videographer),  
över gärden

「KIITO CAFE」のオープニングイベントとして、  
食の生産者との関係を大切にする西宮のレストラン  
「ウーバレゴーデン」が料理を担当、生糸検査所時  
代の機器を活用したカフェの音響設備を手掛けた岡  
篤郎が音楽を提供。「畑からのごちそう」をテーマに、  
第1章から第4章までの音楽と、野菜をふんだん  
に使用した料理が4部構成で供された。音楽が料  
理を楽しむためのもうひとつの食器となり、新しい  
「食」の楽しみ方の提案となった。



→ 12/8(Sun)



○ 講師 Instructor

米山雅彦（パンデュースシェフ）、弓削忠生・  
弓削和子（六甲・弓削牧場）  
Masahiko Yoneyama (Painduce chef), Tadao Yuge and  
Kazuko Yuge (Latière Yugè)

より豊かな「食生活」のデザインを目指す、パンデュースの米山雅彦シェフをコーディネーターにして、神戸市北区にある弓削牧場を訪ねるツアーを開催。牧場内の畑を見学し、搾乳機の仕組みや牛の生活について説明を受けた後、場長の弓削忠生と米山雅彦が牧場の抱える課題や循環型農業について話し合った。

→ 1/29(Wed)



○ 講師 Instructor

さかもと萌美（料理研究家）  
Megumi Sakamoto (Food Researcher)

関西を拠点に食育講座や料理教室を行っているさかもと萌美を講師として、出汁や味覚についてのレクチャーを開催。昆布、かつお、干し椎茸の出汁を飲み比べた後、まめ、ごまめ、紅白なますを試食して、甘い、酸っぱい、辛い、苦いといった味覚を確認した。これまでのさかもとの活動紹介を通して、子どもと食の関係や問題、家族との食事の大切さについても話された。



## 神戸スタディーズ#2 神戸スタディーズ#3

地 — 質からみる神戸

垂直の空間性からみる神戸 ~大阪湾と播磨灘の水の文化を中心にく

↓  
神戸へ

→ 6/26(Wed) - 11/10(Sun)



○ 講師 Instructor

松田法子 (都市史・建築史研究者)  
Noriko Matsuda (Researcher, Architecture and Urban History)

○ モデレーター Moderator

芹沢高志 (デザイン・クリエイティブセンター神戸 センター長)  
Takashi Serizawa (Executive Director of the Design and Creative Center Kobe)

普段、目に見えている都市や建築の表層だけではなく、空間・時間の観点をとりいれたレクチャー&フィールドワーク。大地、海、そして双方の間である“水際”という3つのエリアを設定して、講師のナビゲートにより理論と実地から、神戸の街の特質に迫った。

→ 6/26(Wed)

第1回 レクチャー  
大地からみる神戸：地形と（地）域

→ 7/10(Wed)

第2回 レクチャー  
海からみる神戸：泊・津・湊・港

→ 8/3(Sat)

第3回 レクチャー  
水際からみる神戸：氾濫原・埋立地  
都市の低地性

→ 11/10(Sun)

第4回 フィールドワーク

→ 1/12(Sun)



○ 講師 Instructor

山田創平 (都市社会学者)  
Sohei Yamada (Urban Sociologist)

○ モデレーター Moderator

芹沢高志 (デザイン・クリエイティブセンター神戸 センター長)  
Takashi Serizawa (Executive Director of the Design and Creative Center Kobe)

陸ではなく、海・川といった水の視点から兵庫県や淡路島に視野を広げて神戸を見直すレクチャー。日本海の若狭湾に流れ出る由良川と、瀬戸内海の播磨灘に流れ出る加古川は、「水分かれ」と呼ばれる山嶺の分水界を挟んでつながっており、比較的容易に日本海と瀬戸内海を往来できるこの回廊沿いに、海と山の文化の混在を見ることができる。海から山上に至り、再び海に戻るという垂直の空間性を持つ兵庫の水の文化が紐解かれた。

→ 9/14(Sat) - 3/16(Sun)

→全23回



## ○ 講師 Instructor

濱口竜介 (映画監督)

Ryusuke Hamaguchi (Movie Director)

## ○ ゲスト講師 Guest Instructor

砂連尾理 (振付家・ダンサー)

Osamu Jareo (Choreographer, Dancer)

## ○ 企画 Planning

フィクティヴ有限責任事業組合  
fictive Limited Liability Partnership

## ○ 協力 Cooperation

株式会社 NEOPA、株式会社 Sunborn  
NEOPA Inc., Sunborn Inc.

招聘作家、濱口竜介の制作の一環として、5ヶ月間にわたるワークショップを開催。演技経験不問で一般公募を行い、17人の参加者が選出された。合計23回のワークショップを行った他、濱口監督と参加者がゲストを招いてインタビューを行う「ダイアローグ・カフェ」をはじめ、様々な公開講座を開催。ワークショップでは、身体表現のカリキュラムやディスカッションが重視され、後半に入ると、長編映画『BRIDES (仮)』のシナリオに沿って、2月の成果発表に照準を合わせて練習を重ねた。2/15 (Sat) の成果発表では、ワークショップ参加者全員で『BRIDES (仮)』の台詞、ト書きの読み上げを全編通じて行う「公開本読み」と、シナリオの役柄を演じながら出演者同士が即興的にインタビューを行う様子を記録した「キャラクター・インタビュー」の映像上映が行われた。一連の過程を通じて、映画の制作プロセスを一般公開したのみならず、映画における演技表現について新しい手法を探求する、かつてない機会となった。

## ○ 成果発表「自分が誰なのか言ってごらん?」

→ 2/15(Sat)

『BRIDES (仮)』公開本読み+  
キャラクター・インタビュー映像展示

## ○ 関連プログラム

→ 9/14(Sat)

「なみのこえ 気仙沼」映画上映会+  
濱口竜介×本間直樹トークセッション  
講師:本間直樹(哲学者)

→ 9/21(Sat)

『うたうひと』映画上映会+  
ダイアローグ・カフェ  
~小野和子さんを迎えて~  
講師:小野和子(民話採訪者、みやぎ民話の会)

→ 11/30(Sat)

ダイアローグ・カフェ Vol.2  
翻訳の聞く(イン)、演じる(アウト)  
講師:柴田元幸(翻訳家/英米文学研究者)

→ 12/21(Sat)

ダイアローグ・カフェ Vol.3  
本と「聞く」こと 本との「出会い」  
講師:幅允孝(ブックディレクター)

→ 1/18(Sat)

「音遊びの会」演奏会+  
ダイアローグ・カフェ Vol.4  
音を遊ぶ空間とは何か  
講師:音遊びの会(ミュージシャン)  
協力: Moonwalkers(立命館大学映像学部望月研究室)

→ 2/23(Sun)

ダイアローグ・カフェ Vol.5  
声を「聞く」—誰の?どうやって?  
講師:渡辺真起子(女優)

→ 3/16(Sun)

濱口竜介レクチャー  
「カメラの前で演じること」  
講師:濱口竜介(映画監督)

# MUJI + Creative Seminar

Found MUJI 神戸 リサーチ編【MUJI + クリエイティブゼミ】成果発表展】

## MUJI + Creative Seminar MUJI + クリエイティブゼミ「Found MUJI 神戸」

→ - 2/28(Fri)



→全23回



### ○ 講師 Instructor

高橋孝治 (プロダクトデザイナー)  
Koji Takahashi (Product Designer)

デザインによって神戸のものづくりの新たな可能性を探求する試みとして、無印良品の活動「Found MUJI」を「ゼミ」という新たなアプローチで行い、調査、研究、開発を行った。モノだけでなく、文化、歴史まで掘り下げてリサーチすることで、神戸のまちの魅力を再発見。成果発表として、2014年3月に展覧会が開催された。



### ○ MUJI+クリエイティブゼミ 特別レクチャー

無印良品の各部門のプロフェッショナルを招き、無印良品のモノづくりの仕組みを解剖。参加者が自身の仕事や暮らしのヒントとすることも目指された。(主催: デザイン・クリエイティブセンター神戸、神戸商工会議所、Organizer: Design and Creative Center Kobe, The KOBE Chamber of Commerce and Industry)

→ 8/2(Fri)

vol.1 「Found MUJI」 探す、見つけ出す、  
ものづくり

講師: 矢島岐 (株式会社良品計画生活雑貨企画デザイン室長)

→ 9/20(Fri)

vol.2 「商品の理由(わけ)を伝えるための、  
無印良品の宣伝販促」

講師: 田中満 (株式会社良品計画宣伝販促室長兼WEB事業部管掌)

→ 12/19(Thu)

vol.3 「Global, Local, Universal」  
地域と世界をつなぐ無印良品

講師: 鈴木啓 (株式会社良品計画生活雑貨部長、生産部  
グローバル在庫担当管掌)

→ 2/28(Fri)

vol.4 「無印良品の企画開発  
~インハウスデザイナーの仕事~」

講師: 高橋孝治 (株式会社良品計画企画デザイン室)

→ 3/1(Sat) - 3/30(Sun)



MUJI + クリエイティブゼミ「Found MUJI 神戸」の成果発表展。約1年間の活動を通じて、ゼミのメンバーが見つけたアイテムに加え、モノの背景や活動記録をパネルにして展示した。報告冊子もあわせて制作。



→ 3/29 (Sat)

Found MUJI 神戸 リサーチ編  
ワークショップ「MY Found MUJI」

### ○ 講師 Instructor

山内庸資 (平面作家、イラストレーター)  
Yosuke Yamauchi (Painter, Illustrator)

「Found MUJI 神戸 リサーチ編」の広告物、冊子、展示でイラストを担当した山内庸資を講師として、絵のワークショップを開催。事前に神戸のまちに根ざした「良いもの」を探してきた参加者が、当日持参したものや展示品などから選んでイラストを描き、その場で缶バッジにして提供された。



# ↓ネットワーク

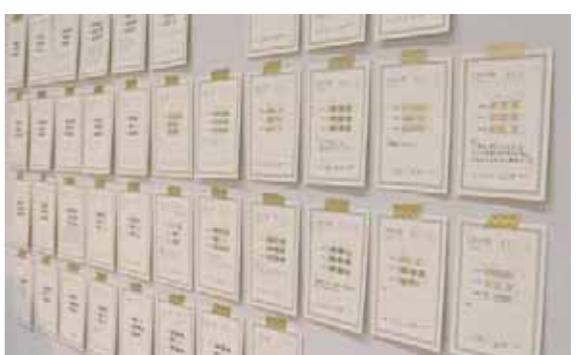
→ 11/15(Fri) - 12/1(Sun)



○ 企画 Planning

アクシスギャラリー  
AXIS Gallery

デザイン系の学生たちによる社会的課題への取り組みを紹介する、アクシスギャラリーで開催された「金の卵 オールスター・デザインショーケース」が巡回。「産学協同／地域連携」をテーマに、各大学から選抜されたデザイン系学部3年生の作品と公募作品を中心に展示された。学部を横断したプロジェクトや、商品化に至った成功事例、多分野との研究開発、企業と大学の連携による試みについても紹介。また、会場内にはポートフォリオ・ライブラリーが設置された。



→ 11/22(Fri)

トークイベント「産学協同／地域連携  
—現場で育て未来のチカラ」

○ 講師 Instructor

金谷勉（クリエイティブディレクター）、かわいひろゆき（デザイナー）、佐野恵子（キュレーター）  
Tsutomu Kanaya (Creative Director), Hiroyuki Kawai (Designer), Keiko Sano (Curator)

それぞれの講師が関わるデザインの現場における状況や課題などが話され、社会全体の人材育成のあり方などについて、再考の契機となった。



→ 3/22(Sat)



普段は開放されていないクリエイティブラボの特別見学と、ラボ入居者の活動を紹介するためのワークショップを開催。館内各所で行われたさまざまな講師による館内ツアーや、トークイベントなどと合わせて、センターの新たな魅力が感じられる機会となった。中庭では、ゼミから生まれた活動「レッドベアサバイバルキャンプクラブ」がダッヂオープンを使用したサバイバルクッキングを実演し、来場者に提供された。



### ○ 実施されたイベント

#### → オープンスタジオ

クリエイティブラボを公開

#### → Monozukuri Workshop

クリエイティブラボによるワークショップ

→ 笑顔で KURASU 花オーブン KIITO 編  
講師：Flower&Plants KAMOE／花萌

→ 革のカードケースづくり  
講師：studio moka

→ 透明水彩でにじみを体験しよう!  
講師：神戸基礎デザイン研究所

→ アイシングクッキーづくり  
講師：株式会社フィリーズギャラリー

#### → KIITO ツアー

→ 神戸フィルムオフィスが紹介する  
「映画ロケスポットめぐり」

講師：三宅千佳（神戸フィルムオフィス）

→ 元検査所勤務・宮垣さんに聞く  
「生糸検査機器の使い方」

講師：宮垣貴美代（元神戸生糸検査所 検査員）

→ ひょうごヘリテージ機構メンバーと巡る  
「建築と歴史を知る KIITO ものがたり」

講師：中尾嘉孝（ひょうごヘリテージ機構会員／  
全国町並み保存連盟理事）

#### → KIITO 副センター長・永田宏和が熱く語る 「+クリエイティブと KIITO」

講師：永田宏和（デザイン・クリエイティブセンター  
神戸副センター長）

#### → 神戸市職員に聞く 「港都神戸 グランドデザイン」

講師：佐野俊幸（神戸市企画調整局）

#### → 濱口竜介監督作品上映 『THE DEPTHS』『親密さ (short version)』

→ KII Talk  
写真家・小林哲朗さんによるトーク  
「KIITO の建物の魅力」  
講師：小林哲朗（写真家）

#### → フリーペーパー +ZINE ミニフェス

協力：納屋工房、ONLY FREE PAPER

#### → slit bar

協力：C.A.P.

#### → ハートブレッドプロジェクト

協力：ハートブレッドプロジェクト

#### → レッドベアサバイバルキャンプクラブが 中庭に登場!

協力：レッドベアサバイバルキャンプクラブ

#### → 交流パーティー

# ユネスコ創造都市ネットワーク UNESCO Creative Cities Network



## ○ 神戸市親善協力都市との交流

→ 11/21(Thu) - 11/23(Sat)

Daegu Gyeonbuk Design Center (韓国・大邱)

神戸市親善協力都市である大邱広域市。その、Daegu Gyeonbuk Design Center「World Design Week in Daegu 2013」をセンタースタッフが視察、今後の連携について意見交換を行った。

2004年、ユネスコは世界の“創造都市”の連携による相互交流を支援するため「創造都市ネットワーク」を創設。神戸市は2008年にデザイン分野に加盟認定された。その拠点として当センターが海外で進めている交流事業について。

→ 9/18(Wed) - 9/21(Sat)

UNESCO Creative Cities Network Conference 2013 (イタリア・ボローニヤ)

ユネスコ創造都市ネットワークは、全加盟都市参加の年次総会を開催し、情報共有や意見交換を行っている。ボローニヤ市庁舎での総会にセンタースタッフが参加。その他、関連施設を視察した。

→ 3/18(Tue) - 4/5(Sat)

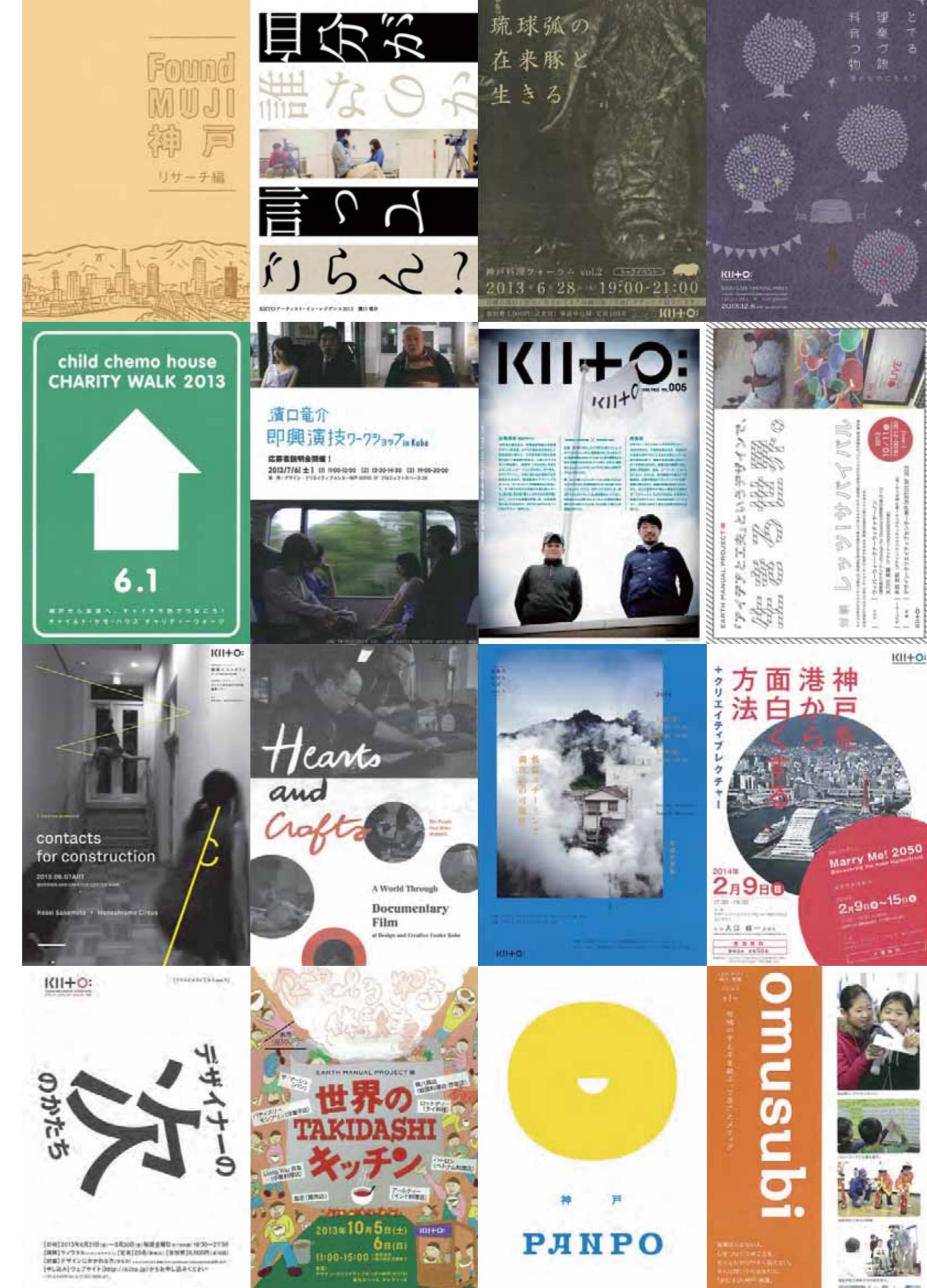
SZ・DAY Shenzhen Design Award for Young talents (中国・シンセン)

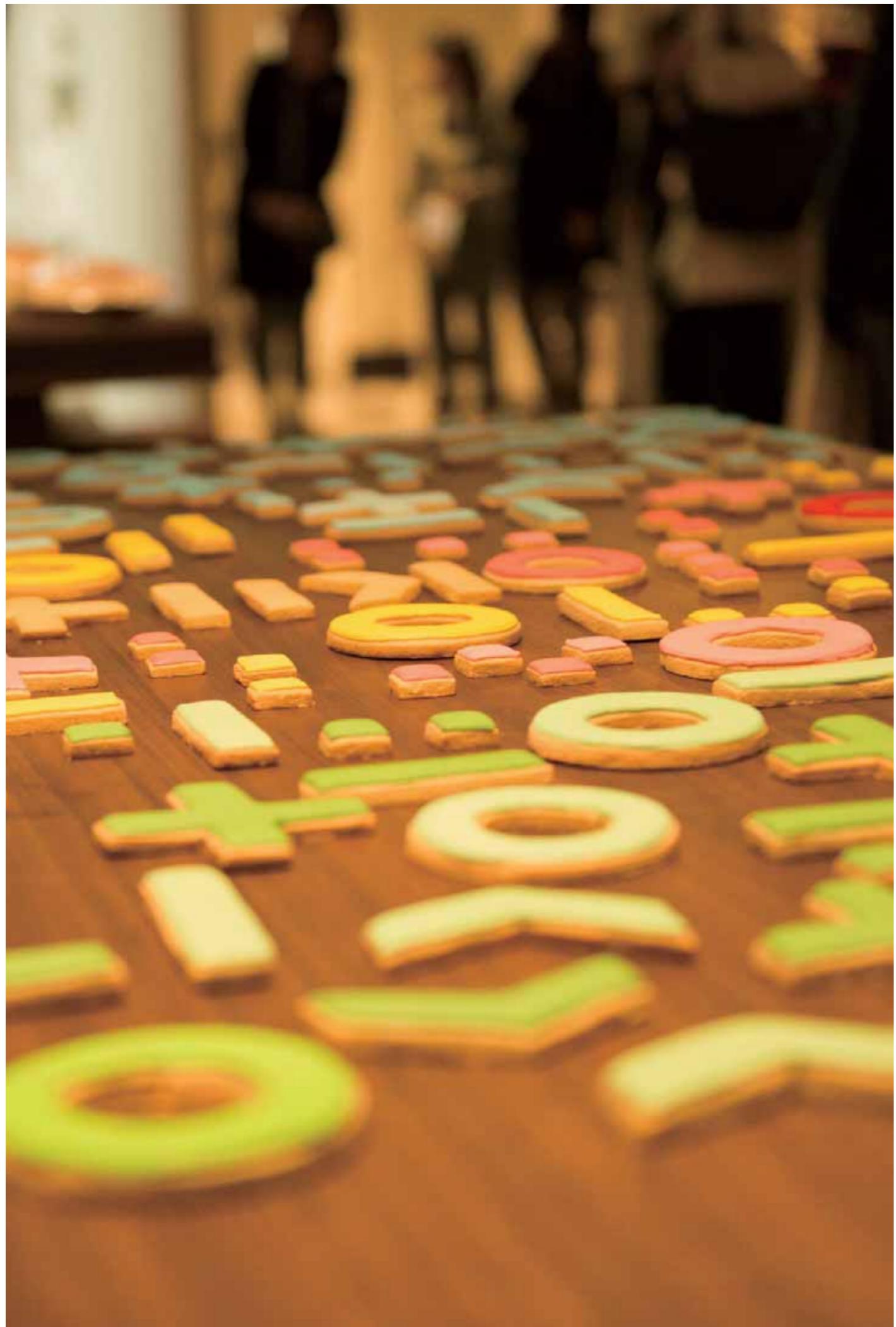
ネットワーク加盟都市を対象に開催されたShenzhen Creative Culture Center主催の国際コンペ「Shenzhen Design Award for Young talents」にKIITOから「ちびっこうべ」を応募。同市OCT Art & Design Galleryで、映像と写真、制作ツールが展示された。

→ 3/20(Thu) - 3/22(Sat)

Dongdaemun Design Plaza (韓国・ソウル)

ユネスコデザイン都市・ソウルのDongdaemun Design Plazaオープニングセレモニーにセンタースタッフが参加して、「ユネスコ創造都市ネットワーク・サブネットワーク会議」でプレゼンテーションを披露。





# 3

データ

Data

- 主なスペース
- KIITO の数字
- 協力クリエイター／団体一覧



## 協力クリエイター／団体一覧

### Collaborators

2013年度の事業で関わりのあったクリエイター、団体（敬称略）

→あ

#### 一般社団法人アーキエイド General Incorporated Association ArchiAid

仙台をベースに活動していた建築家の呼びかけが発端となって2011年4月11日に立ち上がった復興支援ネットワーク。2011年9月に法人化し、世界各国からの寄附を受けるプラットフォームにもなっている。

#### 株式会社アートワークスタジオ Artworkstudio

1997年の創業以来、変わらぬ想いで、ものづくりを続ける。オリジナルデザインの照明は、小さなパーツにもこだわり、自社専用の金型からつくりあげることで、光だけでなく、影の美しさも伝えながら独自のフォルムと世界観を生み出している。そして明かりの先にあるインテリアを含め、日常をより豊かに演出するためのさまざまなプロダクツを神戸から発信している。KIITOクリエイティフラボ入居。「オープンKIITO」ではラボを公開。

#### アヤラ美術館 Ayala Museum

現代美術やフィリピン固有の歴史の展示を行う美術館として、フィリピンの首都マニラにおけるビジネスの中心地・マカティに位置する。歴史、現代美術、音楽、デザインに関する常設プログラムを実施し、企画展示、レクチャー、アーティスト/キュレーターズトーク、ワークショップ、パフォーマンスも開催する。「EARTH MANUAL PROJECT展」展出。

#### 株式会社 ARIGATO-CHAN ARIGATO-CHAN

素晴らしい環境資源に恵まれた神戸の付加価値をさらにワクワク高めることを仕掛けている。神戸のシンボルと、恵まれた神戸のご当地ものを、内外に発信し、神戸の活性化創出を目指して事業を開拓。神戸ポートタワー型のボトルに、神戸が誇る「NUNOBIKO NO MIZU」をボトルインした商品の企画、販売などを行っている。KIITOクリエイティフラボ入居。「オープンKIITO」ではラボを公開。

#### アルマ・キント Alma Quinto アーティスト

視覚芸術分野のアーティストであり、被災地の困難な状況にある人々を対象に、アートを通してヒーリングを行い、個人が主体的に立ち上がる力を促すアート教育者。2006年以降、フィリピン全土、日本、韓国において、活動家、教育者、アーティスト、NGOと共に、被災地域でのワークショップのファシリテーションを行う。ハバナ・ビエンナーレ2003、第2回横浜トリエンナーレ2005、2012～13年には、福岡アジア美術館でのアジアの女性アーティスト展をはじめ、日本での美術展3本に参加。「EARTH MANUAL PROJECT展」展出。

#### イカブトラ Ikaputra 建築家

1962年インドネシア生まれ。大阪大学工学博士。ガジャマダ大学建築計画学部准教授。1995年の阪神・淡路大震災、2006年ジャワ中部地震、2010年マラビ山噴火の被災地に居合わせ、その復興支援に尽力。震災復興住宅の開発、職人への支援を通じた地域復興、防災プログラムの普及など、被災後の困窮のなかで必死に立ち上がろうと努力する被災者の感情に寄り添い、勇気づける活動を多数展開。「EARTH MANUAL PROJECT展」への出展と合わせて、三夜連続レクチャーに出講。

#### 入江 経一 Keiichi Irie 建築家

1950年東京生まれ。1969年東京芸術大学美術学部建築科卒業、1974年東京芸術大学大学院建築科修了、1976年東京工業大学篠原研究室。1980年入江経一建築設計事務所設立、1987年株式会社パワーユニットスタジオ設立。情報科学芸術大学院大学、神戸芸術工科大学客員教授。+クリエイティブレクチャー講師を担当。

#### 岩切 エミ Emi Iwakiri デザイナー

スタイルストを経た後、大手企業の商品開発に携わる。1996年にワンドフルカンパニーを設立し、独自のブランドcar \* g \* momを展開。欲しいものを楽しく作ることを第一に、機能性と遊び心のある作品で多くのファンを魅了している。東日本大震災後に高津玉枝氏（「EARTH MANUAL PROJECT展」に出演）が立ち上げた「EASTLOOP」に協力。

#### ヴィバーイー・クナーウィチャヤーノン Vipavee Kunavichayavont

タイ国内の芸術学部で芸術教育を専攻した後、アメリカでインテリア建築の修士号を取得。帰国後、アジア工科大学で防災管理を学ぶ。大学講師となり、タマサート大学建築計画学科では災害に備えた建築について教鞭をとる。2010年からDesign for Disasters (D4D) の活動を開始。「EARTH MANUAL PROJECT展」ではD4Dとしての出展と合わせて、レクチャーやワークショップで講師を勤めた。

#### ウーバレゴーデン över gärden

西宮にて2004年にオープンしたレストラン。生産者の顔が見える無農薬・無化学肥料栽培の野菜をたっぷり食べてもらうことをコンセプトに、生産者に会いに行き、畑を見ること、人に会うことを大切にし、ナチュラルキュイジーヌ（生産者とシェフが共に作る料理）を目指している。様々な形で店に関わってもらえたとイベント、ワークショップ、朝市などを展開してきたが、2014年5月25日をもって閉店。その後も、チームöver gärdenとして活動。KIITOカフェのオープニングパーティでの料理を提供。

#### 上野 直哉 Naoya Ueno 日本料理店 店主

1970年大阪府大阪市生まれ。浪速割烹の礎を築いた上野修三氏の二男として生まれる。18歳で京都「菊乃井」村田吉弘に師事し、2004年神戸市中央区に「玄斎」を開店。父の下で親しんだ「なにわ伝統野菜」に加え、現在は兵庫の在来品種を積極的に取り入れ、自ら産地に赴き生産者と親交を深めるほか、食育にも力を注ぐ。2011年版ミシュランガイドにて二ツ星獲得。著書に『四季を和える』（旭屋出版）、NHK「きょうの料理」出演。KIITO Party「喜怒哀楽」で食を担当。

#### ウォン・ジクスー Jiksoo Won ミュージシャン

1960年生まれ。大阪芸術大学舞台芸術科卒業。1986年劇団オンシアター自由劇場に研究生として入団。1992年NYクラブU.S.AでBand H.M.Sデビュー。以降、現代美術作家や舞踏家とのコラボレーションを精力的に展開。現在は声色師としてソロ活動の他、打楽器奏者・横澤道治とのユニット「ソウル・ドライマー」、舞踏家や障害者との即興コラボ、そして自身のバンド「キモリ」でも活躍している。「KIITO中庭でライブ!!!!」に出演。

#### 大木 聖子 Satoko Oki 地震学者

専門は地震学・災害情報・防災教育など。高校1年生の時に起こった阪神・淡路大震災を機に地震学を志す。2001年北海道大学理学部地球惑星科学科卒業、2006年東京大学大学院理学系研究科にて博士号を取得後、カリフォルニア大学サンディエゴ校スクリップス海洋研究所にて日本学術振興会海外特別研究员。2008年4月より東京大学地震研究所助教。2013年4月より慶應義塾大学環境情報学部（SFC）准教授。「EARTH MANUAL PROJECT展」アドバイザリーボードメンバー。

#### 岡篤郎 Tokuo Oka デザイナー/ディレクター/ビデオグラファー

1979年生まれ、千葉県市原市出身。映像広告の音楽を制作。音や音楽の持つ、機能や本質を軸に音のアプローチを考えるために、音楽/SEの制作に加え、環境/空間設計、選曲、コーディネートなどもおこない、音の機能から導きだす映像制作、企業や商品のプランディングや企画・開発にも関わる。また、自らが主宰する「新しい聞き方を提案する」プロジェクト「LIFETONES」を展開中。音楽プロダクション「KAGINONE」ディレクター。KIITO CAFEで流れる音楽の設計を担当した。

#### 岡崎 智弘 Tomohiro Okazaki アートディレクター、グラフィックデザイナー

1981年生まれ。東京造形大学デザイン学科卒業。2011年9月よりデザインスタジオSWIMMINGを設立。代表作にEテレ「デザインあ 解散！コナー」「大塚製薬SOYJOYテレビCM 果物パレード篇」、雑誌情報誌「季刊ritokei」など。印刷物から映像制作までカタゴリを横断したデザインを行う。デザイン・トークイベント「Designers」出演。

#### 岡本 欣也 Kinya Okamoto コピーライター

1969年生まれ。1994年岩崎俊一事務所入社。2010年オカキン設立。おもな仕事は、日本たばこ産業「大人たばこ養成講座」シリーズ、「あなたが気づけばマナーは変わる」、グリコ「あ、大人になってる」、ホンダ「ハイブリッドカーは、エコで終わるな」、キリンフリーの開発・ネーミングなど。日本郵政「年賀状は、贈り物だと思う」、ミツカン「やがて、いのちに変わるもの」など岩崎俊一氏との共同作業も多数。「EARTH MANUAL PROJECT展」アドバイザリーボードメンバーで、同展のコピーを担当。

#### 奥田 政行 Masayuki Okuda オーナーシェフ

1969年山形県鶴岡市で生まれ、地元高校を卒業後、東京にてイタリア料理、フランス料理、フランス菓子とイタリアンジェラートを修業。帰郷後、2つの店で料理長を歴任したのち、2000年イタリア料理の店「アル・ケッチャーノ」、2007年、カフェ＆ドリチをメインとする「イル・ケッチャーノ」、2009年、主に山形県の食材で作るイタリア料理の店「ヤマガタ サンダンデロ」を銀座にオープン。イタリア、ハンガリー、アメリカ、スペインなどでも活動し、独創性に富んだ料理は、海外でも高く評価されている。山形県庄内総合支店「食の都庄内」親善大使、庄内浜文化伝道師マイスター。+クリエイティブレクチャー講師を担当。

#### ONLY FREE PAPER

世界初のフリーペーパー・フリーマガジンの専門店として、2010年東京・渋谷にオープン。全国各地のフリーペーパーを扱い、製作者と読者の架け橋となるよう活動する他、紙メディアを通じてアナログメディアから受け取る原始的な体験の大切を伝え。その他、フリーペーパーを活用したスペースディレクションや製作者に関するイベントなども定期的に開催。現在は渋谷PARCO PART1に「スペース」として展開をしている。「オープンKIITO」に出演。

→か

#### 筧 裕介 Yusuke Kakei

一橋大学社会学部卒業。東京大学大学院工学系研究科修了。東京大学大学院在学中より、社会課題をデザインで解決するソーシャルデザイン領域の研究、実践に取り組む。2008年にはissue+design 設立。著書に『ソーシャルデザインハンドブック』、共著書に『地域を変えるデザイン』『震災のためにデザインは何が可能か』、他。「EARTH MANUAL PROJECT展」出演。

#### 金谷 駿 Tsutomu Kanaya クリエイティブディレクター

京都精華大学人文科学部卒業後、企画制作会社、広告制作会社を経て、1999年10月「COMPRE PRODUCE DESIGN」設立。大阪・東京で、グラフィック、Web、プロダクト、広告デザイン、商品企画開発、企画ディレクションなど、幅広く活動する。また自社プロダクトを企画、生産、流通まで展開するとともに、流通を見据えた形で日本各地の地場産業との協業企画も積極的に進めている。「金の卵KIITO巡回展」でのトークイベントに出演。

#### Flower & Plants KAMOE / 花萌 KAMOE

花、植物、プリザーブドフラワー、アーティフィシャルを花束やアレンジでお届け。「生活をデザインする」をテーマに店舗・Webでの販売、ウェディング装飾事業、花教室を開催。「お客様が一番素敵に輝く時・空間を創造する、お客様応援事業」を掲げている。KIITOクリエイティフラボ入居。「オープンKIITO」ではラボを公開し、ワークショップも実施。

#### かわひひろゆき Hiroyuki Kawai デザイナー

1980年東京芸術大学美術学部デザイン科卒業。1993年多摩美術大学大学院美術研究科修士課程修了。株式会社電通アートディレクターを経て、神戸芸術工科大学ビジュアルデザイン学科教授。アートやデザインの分野を中心に「阪神・淡路大震災を次世代に伝える」というコンセプトを掲げる「ヒトキズナぶるじょく」となどを展開。「金の卵KIITO巡回展」でのトークイベントに出演。

#### 吉川 肇子 Toshiko Kikkawa

1982年京都大学文学部心理学専攻卒業。1985年早稲田大学文学研究科修士課程修了。1988年京都大学文学研究科博士課程後期単位取得退学。1999年京都大学文学博士。1989年京都学園大学法学院専任講師、1994年筑波大学社会工学系講師、1998年慶應義塾大学商学部助教授を経て、2011年慶應義塾大学商学部教授。「EARTH MANUAL PROJECT展」での地震ゲームを作るデザインワークショップにゲストとして参加。

#### 木村 博之 Hiroyuki Kimura デザイナー

1956年宮城県女川町生まれ。1986年株式会社チューブグラフィックス設立。代表取締役。1995年SND Malofiej Infographics Awardsで金賞受賞。1998年、競技インフォグラフィックスをコンセプトとする「長野オリンピック公式ガイド」を企画・デザイン・作成。2009年「第30回 SND (The Society for News Design) 国際コンテスト」審査員。2011～13年、経済産業省主催の「ツタグラ（伝わるインフォグラフィックス）」のアドバイザリーボード。現在、朝日新聞広告局のインフォグラフィックス廣告「INFO-GRAF」のコンセプトデザイナーとして、また日本経済新聞の「アジアビジネスマップ」のグラフィック・ファシリテーターとして制作に協力中。+クリエイティブゼミ特別講座の講師を担当。

#### 楠田 裕彦 Yasuhiko Kusuda 食肉加工職人

1972年生まれ。ハム職人の父の仕事を手伝う。神戸、大阪でイタリア・フランス料理を学ぶ。レストランローテローゼでシェフを務める。バーデン・ヴュルテンベルク州バートザウルガウのメツゲライヌスバウマーでハム・ソーセージの修行を始める。フランス・アルザス・パリでのシャルキュトリーデ研修を受けた後、帰国。2000年鹿児島クサハム工房にて工場長として携わる。2004年神戸に移り、メツゲライクスダ六甲道店、2009年芦屋店を開店。神戸料理フォーラムトークイベントのモデレーターを担当。

#### 音遊びの会 Otoasobinokai

2005年、神戸大学の大学院で音楽療法を研究していた沼田里衣らを中心に結成。

知的障害者、音楽家、音楽療法家等総勢50名に及ぶ音楽プロジェクト。即興演奏を通じて音楽や福祉のあり方を模索しながら、ワークショップやコンサート等様々な活動を重ねている。2013年9月に行なった初のイギリスツアーの模様がNHKで放送されるなど、現在その動向に大きな注目が集まっている。KIITOアーティスト・イン・レジデンス2013「ダイアローグ・カフェ」に出演。

#### 小野 和子 Kazuko Ono 民話探訪者、みやぎ民話の会

1934年、岐阜県高山市に生まれる。東京女子大学日本文学科卒業。その後、宮城県仙台市に住むことになり、宮城県を中心とした東北地方の民話を訪ね、聞き、記録をする。1975年に「みやぎ民話の会」を設立し、現在は同会顧問。編著書に『長者原老嫗夜話』(評論社)、『みちのく民話まんら』(北星社)、『七ツ森周辺の民話』(日本民話の会)などがある。KIITOアーティスト・イン・レジデンス2013「ダイアローグ・カフェ」に出演。

#### OLIVE PROJECT

東日本大震災発生の40時間後に立ち上げた、非常に生活中で役立つアイデアやノウハウを集めたwiki「OLIVE」。検証されたアイデアであれば誰でも投稿することができ、1000以上のアイデアが集まっている。現在4か国語に翻訳されている。「EARTH MANUAL PROJECT展」出演。

#### NPO法人神戸デザイン協会 Kobe Design Association

個々の会員の持つ英知と情熱を集め、元気で魅力ある地域の文化および経済の振興を促進させるデザイン提案をプロデュース。事業内容は、1.デザインに関する研究会・展示会・講演会などの開催事業、2.デザインに関する図書その他刊行物の発行事業、3.デザインスクールなどに専門講師の派遣事業、4.デザインに関する業務の受託事業、5.他団体の運営または活動に関する連絡、助言または援助事業。KIITOクリエイティフラボ入居。「オープンKIITO」ではラボを公開。

#### 神戸フィルムオフィス Kobe Film Office

国内外から映画、テレビドラマ、テレビ番組、CMなどの映像撮影を神戸に誘致し、撮影に必要な支援を無料で提供する。美しい海と山をはじめ、洗練された町並み、活気あふれる下町、のどかな田園風景、酒蔵や温泉街など、ロケ地が豊富に揃っている神戸を、映像を通して元気にしたいという思いで設立された。映像制作者や観光客に神戸の魅力を発信するのはもちろん、神戸市民に映像の楽しさと神戸の「ステキ」な部分を伝えるために活動している。「オープンKIITO」ツアーレクターを担当。

#### 神戸料理学会 Kobe Cuisine Forum

本当の意味での豊かな食とは何か？食は日々のものであるという純粋な視点から、もう一度考え直す。次世代の食を牽引する若手料理人や、未来を担う子どもたち。野菜や肉など第一次産業に従事する生産者。あらゆる立場の人々と食を軸に交流し、対話し、学び、考える。「カ・セント」福本伸也、「サ・マーシュ」西川功晃、「メツゲライクスダ」楠田裕彦の3名が立ち上げた。

#### 小寺 麻子 Asako Kotera ダンサー

兵庫県出身・在住。ダンスカンパニー Monochrome Circus ダンサー。「朱雀に寄せる哀歌」『レミング』などのカンパニー作品に出演。クリエイティブ集団grafとのコラボレーション作品『直島劇場』や『TROPE』では、カラダをとりまく空間やモノとの関係を摸索した。また、各種ワークショップでのアシスタントや講師を務め、教える/伝えるを通して「つながるカラダ」の可能性を拓げている。+クリエイティブゼミ講師、+クリエイティブワークショップアシスタント。

#### 小林 哲朗 Tetsuro Kobayashi 写真家

### サノワタル Wataru Sano プロデューサー

グラフィックデザイン・ウェブデザインなどを中心に、様々な領域のデザインや企画を手掛けた。2006年から「地域」「デザイン」「コミュニティ」をコンセプトにした活動を展開。京都精華大学非常勤講師。+クリエイティビティ「デザイナーの次のかたち」講師を勤めた。

### 柴田 元幸 Motoyuki Shibata 翻訳家／英米文学研究者

1954年生まれ。ボール・オースター、チャールズ・ブコウスキー、トマス・ピンチョンなど、現代アメリカ文学を中心に数多くの翻訳を行っている。エッセイストとしても知られ、「生半可な学者」では講談社エッセイ賞を受賞。また文芸雑誌『モンキー・ビジネス』(～2011年10月)、『モンキー』(2013年10月～)の責任編集を行っている。KIITOアーティスト・イン・レジデンス2013「ダイアローグ・カフェ」に出演。

### 澁谷 和之 Kazuyuki Shibuya デザイナー

1980年生まれ。秋田県美郷町出身。東京の広告代理店勤務を経て、地元美郷町にて「渋谷デザイン事務所」として独立。実家の畠で農業を営みつつ、商業デザインに携わる。「のんびり」では、主に誌面デザインを担当。KIITalk「のんびりの作り方」出演。

### 砂連尾 理 Osamu Jareo 摂付家・ダンサー

1991年、寺田みさことダンスユニットを結成。近年はソロ活動を行い、舞台作品だけでなく臨床哲学者や、映像作家、情報・ロボット工学者と様々なプロジェクトを行うなど、ジャンルの越境、文脈を横断する活動を行っている。2008年度文化庁・在外研修員としてベルリンに1年滞在。近年の作品に「Thikwa + Junkan Project」「とつとつダンス」「家から生まれたダンス」などがある。立命館大学、神戸芸術学院大学非常勤講師。「濱口竜介即興演技ワークショップ in Kobe」に参加している。

### SIRUSI (笛 充行) グラフィックデザイナー

1969年大阪生まれ。2000年に事務所設立。フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動中。「印象にこころ表現を平面に」の想いから「印」をとり「SIRUSI (シリシ)」とした。KIITOで開催した「child chemo house CHARITY WALK 2013」「神戸PANPO」「世界のTAKIDASHIキッキン」「神戸料理フォーラム」のフライヤーやツールのデザインを担当した。

### 末武 純子 Junko Suetake 建築家

1967年生まれ。Suetake Studio 2主宰。九州芸術工科大学大学院で省エネルギー・生態学的デザインを専攻。その後、日本と英国にて様々な建築家のもので働く。2000年に独立、主に住宅設計を通して国産木材や自然素材に向き合う。2005年に再度渡英。昨年まで共同主宰を務めた事務所にて設計した木造住宅 Bateman Mews が2010年英国建築家協会賞受賞。現在はロンドンでUKパッシブハウス団体の仲間とコ・ハウジングを設計中。一級建築士。ドイツのパッシブハウス研究所公認パッシブハウス・デザイナー。KIITOで開催した「未来のかけらラボ」講師を担当した。

### SKKY

2003年より大阪市北区本庄西と言う繁華街から少し離れたところで、グラフィックデザインを業務の中心に活動。また作家のサポート及びプロデュースを併設したiTohenにて現在に至る。KIITOで開催した「Found MUJI 神戸 リサーチ編」の広報物・冊子のデザイン、会場構成を担当。

### studio moka

雑貨・アクセサリー製作、イタリアに関連した食やアートのイベント・ワークショップを企画・提案。クリエイティブな時間から離れてしまった世代に向けて、もう一度、クリエイティブやアートの楽しみを提案している。KIITOクリエイティブラボ入居。「オープンKIITO」ではラボを開き、ワークショップも実施。

### スブニコ! Sputnik! アーティスト

1985年東京都生まれ。ともに数学者の英国人の母、日本人の父の間に生まれる。ロンドン大学インペリアル・カレッジ数学科および情報工学科を20歳で卒業後、アーブログラマーとして活動。その後、英国王立芸術学院(RCA) Design Interactions科修士課程を修了。在学中より、テクノロジーによって変化していく人間の在り方や社会を反映させた作品を作成。2009年、原田セザール賞との共同プロジェクト「Open\_Sailing」が、アルス・エレクトロニカで「the nextidea」賞を受賞。2012年より神戸芸術工科大学大学院客員教授。

### SPREAD クリエイティブ・ユニット

小林弘和と山田春奈により2004年結成、2006年SPREAD設立。あらゆる記憶を取り入れ、その記憶から境界を越えて「SPREAD=広がる」クリエイティブを行う。生活の記録をストライプ模様で表現するアートワーク「Life Stripe」を2005年より発表。受賞歴は、D&AD賞、red dot design賞、アジアデザイン賞、グッドデザイン賞、日本パッケージデザイン大賞など。KIITOと協働する阪神・淡路大震災+クリエイティブタイムラインマッピングプロジェクトは「EARTH MANUAL PROJECT展」にも出展した。

### 曾我部 昌史 Masashi Sogabe 建築家

1995年みかんぐみ共同設立。設計だけでなく、ワークショップの企画運営や評論の執筆、アートプロジェクトなど、多彩な活動を展開。主な作品に、「北京建外SOHO低層商業棟」(2003)、「2005年日本国際博覧会トヨタグループ館」、横浜市の京急高架下文化芸術活動スタジオ「黄金スタジオ」(2008)、「BankARTLife-新・港村」(2011)。「EARTH MANUAL PROJECT展」アドバイザリーボードメンバー。また展覧会の会場構成を手掛けた。

### 曾和 具之 Tomoyuki Sowa ドキュメンテーションデザイナー

1973年神戸生まれ。高知大学理学部物理学科卒業後、千葉大学大学院自然科学研究科地域多様性科学専攻。学術博士。2001年より同志社女子大学上田信行に師事。ワークショップや会議のドキュメンテーション・メディア開発を行っている。KIITOのワークショップやカフェオープニングパーティーの記録撮影を担当。

### →た

### タイ・クリエイティブ・デザインセンター Thailand Creative & Design Center

2005年11月15日に開館したタイ・クリエイティブ・デザインセンター(TCDC)は、タイ首相府の知識開発管理事務所が管轄する5部門の1つ。タイにおけるデザインとクリエイティビティのトップレベルの学習資料センターとして、展示会、講演、ワークショップから研究設備まで、デザインに関するあらゆる情報を提供している。KIITOアーティスト・イン・レジデンス2013「ダイアローグ・カフェ」に出演。

### 高尾台まちづくり協議会 takaodai matizukuri kyougikai

65歳以上の高齢化率が40%を超える須磨区高尾台において、地域の安心・安全の確立を目指すと共に、将来計画づくりに励んでいる。2012年度の+クリエイティビティ以降もKIITOと連携して活動を続けている。

### 高田 勝 Masaru Takada

幼年期より動植物、特に在来畜に興味を持ち、中学時に天然記念物の日本鶴を数多く飼育。後にアジアで野鶴の調査を行う。1984年に沖縄県今帰仁村に移住、野鶴および在来鳥の飼育開始。2003年農業生産法人有限会社今帰仁アグー設立。2010年財団法人沖縄こども未来ゾーン運営財団チルドレンズミュージアム館長就任、2011年公益財団法人沖縄こどもの国施設長に就任。神戸料理フォーラムで、沖縄の風俗と歴史に育まれてきた沖縄の豚「今帰仁アグー」を紹介した。

### 高津 玉枝 Tamae Takatsu

1991年に雑貨を中心とした売り場をプロデュースする会社を設立し、百貨店や小売業、企業の業態開発などを行った。2006年にフェアトレードを中心とした事業を行なう株式会社福市を設立。2008年フェアトレードのセレクトショップ「LOVE&SENSE」を表参道ヒルズに立ち上げ、百貨店をはじめとする商業施設でイベント出店。2012年阪急うめだ本店に「LOVE & SENSE」の常設店舗を構える。東日本大震災後に「EAST LOOP」を立ち上げる。「EARTH MANUAL PROJECT展」に出演。

### 高橋 孝治 Koji Takahashi プロダクトデザイナー

1980年大分県生まれ。2004年多摩美術大学生産デザイン学科プロダクトデザインコース卒業。2005年より株式会社良品計画生活雑貨部企画デザイン室に勤務し、無印良品の生活雑貨の企画開発、防災プロジェクト「いつものもしも」の企画開発を行った。2012年より、KIITOに開設された、MUJI+クリエイティビティスタジオの企画運営を兼務。フリーランスとしても活動中。

### ダキーラ Dakila

社会正義の実現のため活動を行うフィリピンの団体。アーティスト、学生、若手専門家、個人が協働して、クリエイティブなアイデアで社会意識を醸成し、よりよい社会を築くための活動を行う。心に宿る善なるものは、行動に表れるという信念の下、力強いメッセージを放つアートの力や、フィリピン人の心を豊かにする創造的なものの価値、団体の力を活かした活動を展開する。「EARTH MANUAL PROJECT展」に出演。

### 竹内 厚 Atsushi Takeuchi 編集者

1975年生まれ。情報誌「マガジン編集室」から編集をはじめて、雑誌の休刊にともなって退社。現在はRe:Sに所属。2012年、Re:SがKIITOクリエイティブラボに入居したことでKIITOが発行するニュースレターなどの編集を担当。聖地ユニット「fernich」、京都造形芸術大学ULTRA FACTORYのプロジェクト「BY EDIT」などの活動も。

### 太刀川 英輔 Eisuke Tachikawa デザイナー

2006年「見えない物をつくる職業」という意味を持つ、デザイン事務所NOSIGNERを設立。家具、プロダクト、地場産業の活性化、若手クリエイターのプロデュースなど、多分野のデザインを通じて社会を変える活動を行う。東日本大震災被災地支援プロジェクト「OLIVE PROJECT」代表。PENTAWARDS PLATINUM AWARD 最優秀賞、DESIGN FOR ASIA AWARD 大賞、他受賞。「EARTH MANUAL PROJECT展」に出演。

### 立花 文乃 Ayano Tatibana スタイリスト

1985年生まれ。多摩美術大学生産デザイン学科テキスタイル専攻卒業。スタイルリスト伊賀大介に師事後、2012年より独立しフリーのスタイルリストとして活動。主な活動内容としてCMやミュージックビデオ、映画等のスタイリングの他コストチューム、ディスプレイ製作など。デザイン・トークイベント「Desiners」出演。

### 田中 满 Mitsuaki Tanaka

1993年、株式会社良品計画入社。無印良品町田店や草津エイスクエアの店長や販売部エリアマネージャー、販売部長、食品部長などを経て、2011年より、宣伝促進室長兼WEB事業部管掌。MUJI+クリエイティビティゼミ特別レクチャー講師。

### 田中 健司 Kenji Tanaka メディアアーティスト

1981年兵庫県生まれ。大阪成蹊大学芸術学部を経て、2010年情報科学芸術大学院大学(IAMAS)卒業。2004年よりプロジェクトマッピング作品の制作を開始し、二条城、六甲山上駅など公共空間での発表を行う。2010年から「六甲ミーツ・アート」に参加し、2013年には東急ハンズANNEX店や京都の鴨川プロジェクトマッピングのディレクションを担当。現在、KIITOクリエイティブラボに拠点を置き、大阪電気通信大学非常勤講師を務める。

### 田宮 健 Makoto Tamaiya デザイナー

1976年生まれ。秋田県秋田市出身。東京で店舗デザインなどに関わった後、秋田市で「casane tsumugu」をスタート。伝統工芸から食まで、秋田の資源をリデザインする活動に携わる。秋田県発行のフリーマガジン「のんびり」では、主にWeb・SNS管理を担当。KIITalk「のんびりの作り方」出演。

### NPO法人チャイルド・ケモ・ハウス Nonprofit Organization child chemo house

小児がん治療中の子どもたちとその家族の、QOL(Quality Of Life-生活の質)に配慮した日本で初めての専門治療施設。自分の家のような環境で家族が共に暮らしながら小児患者が安心して化学療法(抗がん剤治療)を受けることができる。KIITOとの共催で、三宮から施設までのチャリティーウォークを開催。

### 櫛橋 修 Osamu Tsukihashi 建築家

1968年富山県生まれ。2002年ティーハウス建築設計事務所設立。2003年から2009年9月まで東北工業大学工学部建築学科講師。2009年10月より神戸大学准教授。2009年日本建築学会賞共同受賞。主な作品に、新潟県十日町市・清津川プレスセンター「きよっつ」(2009)、「三宮BOS」アートワーク(2011)、東日本大震災復興支援「失われた街」模型復元プロジェクト(2011)などがある。

### 株式会社 tmsd tmsd

建築の構造設計事務所。公共施設、商業・工場施設、オフィス、住宅など各種建築の構造設計を行なっている。また、イベントのインスタレーションや、アート作品の構造設計なども行う。KIITOクリエイティブラボ入居。「オープンKIITO」ではラボを公開。

### 株式会社ティーハウス建築設計事務所 ARCHITECTS TEEHOUSE

建築を現代社会における文化の要と位置づけ、住宅設計、施設設計から店舗開発、都市デザイン、メディア制作に至るまで、幅広い分野で活動を行う。オープンな話し合いを通してプロジェクトを育成、様々なイベントで活動を行う。オーブンな話題を共有して、新しい環境づくりの方法を潜在的な可能性の中から時間と空間をかけて掘り起こす。KIITOクリエイティブラボ入居。「オープンKIITO」ではラボを公開。

### デザイン・フォー・ディザスターズ Design for Disasters

2010年1月設立。若手デザイナー、アーティスト、学者で構成されたメンバーだけでなく、一般の人々ともアイデアを共有し、いつ都市を襲うかもしれない異常気象による災害に備え、長期的な解決策を考える研究ネットワークとして、情報や知識を共有するプラットフォームの構築を目指している。またタイだけでなく、世界の平和と安全、回復力、持続可能な変容を促進するため、行政、民間セクター、団体間の協働を推進している。「EARTH MANUAL PROJECT展」に出演。

### テニスコート Tenniscoats ミュージシャン

さやと植野隆司により、1996年から始まったバンド。生音の演奏を軸に、スペースや共演者によって形が変わるフリー・サウンド・ポップ。これまでに、13枚のアルバムを単独/コラボレーションで制作、日本、イギリス、スウェーデン、オーストラリアでリリース、各地でツアーを行っている。「KIITO中庭でライブ!!!!」に出演。

### 遠山 敦 Atsushi Toyama 画家

1970年岐阜県生まれ。鳥をモチーフとした絵を多く描き、作品集「BirdBook」「ColordBirdBook」刊行。日本各地で楽しみながら絵を描くワークショップを企画、開催している。美かえるカラフルプロジェクトに協力。

### dot architects

家成俊勝、赤代武志により2004年共同設立。大阪・北加賀屋を拠点に活動。建築設計だけに留まらず、現場施工、アートプロジェクト、さまざまな企画にもかかわる。KIITOにある検査所時代の什器を活かしたライブラリの空間プロデュースを行った。

### 友廣 裕一 Yuichi Tomohiro

2008年に大学卒業後、全国70以上の農山漁村を訪ねた経験を活かし、フリーランスで漁業後継者育成及び水産物直販に向けた仕組みづくりなどの企画を行う。2011年3月17日から避難所の状況把握を行うプロジェクトの現地マネージャーとして宮城県に入り、その後、仲間達と「一般社団法人つむぎや」を立ち上げ、手仕事を通した役割づくり・コミュニティ再生の事業を実施。「EARTH MANUAL PROJECT展」に出演。

### →な

### 中尾 嘉孝 Yoshitaka Nakao

1970年、神戸市兵庫区生まれ。15の春、近代化遺産の魅力に開眼、以来、学業・部活・本職・保存活動の合間に縫って、京阪神間を始めとする各地の建築・町並みの「追っかけ」活動に勤む。2009年、一般競争入札による売却处分が打ち出された旧神戸生糸検査所庁舎について、保存活用を行う買取希望者へ売却することを求める運動に「港まち神戸を愛する会」世話人として携わった。「オープンKIITO」ではツアーレクチャー講師を務めた。

### 中田 千彦 Senhiko Nakata 建築家

1990年東京藝術大学美術学部建築課卒業、1993年コロンビア大学建築・都市・歴史保存大学院建築修士課程修了、東京藝術大学美術学部建築科助手、京都造形芸術大学芸術学部環境デザイン学科助教授、コロンビア大学研究員、新建築社勤務などを経て、2006年から宮城大学事業構想学部デザイン情報学科准教授。「EARTH MANUAL PROJECT展」に出品。

### 生意気 Namaiki アーティスト

1970年ニュージーランド生まれのデヴィッド・デュバル=スマスと、1966年イギリス生まれのマイケル・フランクによるグラフィック、映像、立体などを手掛けクリエイティブ・ユニット。グラフィックを中心に、ハードなゴスペルミュージックや大工仕事、ガーデニングなど、持ち前の遊び心を活かして幅広く活動している。KIITOの中庭の制作を行った。

### 納屋工房 NAYAkobo Design Office + Community Space

姫路城を望むビルの4階にある、「つなぐ」デザインオフィスとコミュニティスペース。地元産の杉材を敷いた約80m<sup>2</sup>の空間は、カフェやバー、講座、講演、ヨガやマッサージ、音楽や演劇など、さまざまなイベントに利用可能。日本全国から地域のいいところを紹介した冊子を集めた「日本ZINE! 紙FES in HIMEJI」や、地元で活躍する人をゲストに迎える「百人の哲学」、他地域の事例を聞いて自立的な活動を促す「ひめじまちづくり喫茶」などを企画・

### 幅 允孝 **Yoshitaka Haba** ブックディレクター

BACH (バッハ) 代表。ブックディレクター。人と本がもう少しうまく出会えるよう、様々な場所で本の提案をしている。伊勢丹新宿店本館地下2階「ピューティアボセカリー」や、「フルクリンパラー」など本屋と異業種を結びつけたり、病院や企業ライブラリの制作など、その活動範囲は本の居場所と共に多岐にわたる。著作に『幅書店の88冊』(マガジンハウス)がある。他にも『本の声を聴け ブックディレクター幅允孝の仕事』(著・高瀬毅／文藝春秋)が刊行中。愛知県立芸術大学非常勤講師。KIITOアーティスト・イン・レジデンス2013「ダイアローグ・カフェ」に出演。

### 濱口 竜介 **Ryuusuke Hamaguchi** 映画監督

1978年、神奈川県生まれ。2008年、東京藝術大学大学院映像研究科の修了製作『PASSION』が国内外の映画祭で高い評価を得る。その後も日韓共同製作『THE DEPTHS』(2010)、東日本大震災の被災者へのインタビューから成る映画『なみのとお』『なみのこえ』、東北地方の民話の記録『うたうひと』(2011～2013・共同監督：酒井耕)、4時間を超える長編『親密さ』(2012)を監督。精力的に新作を発表し続けている。KIITOアーティスト・イン・レジデンス2013招聘作家。

### 林 周平 **Shuhei Hayashi** シェフ

1965年生まれ。国内のホテル勤務後、渡仏。パリ「ニッコー・ド・バリ」「ジャン・ミエ」で修業を行い、帰國後、ホテル・バティスリー製菓長に就任。神戸の地でフランス菓子文化をより深めたいと考えている。ちびっこカフェでは子どもたちに調理指導を行った。

### 坂 茂 **Shigeru Ban** 建築家

建築家、京都造形芸術大学教授。1957年東京生まれ。クーバー・ユニオン建築学部を卒業。1982年、磯崎新アトリエに勤務。1985年、坂茂建築設計を設立。1995年から国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)コンサルタント、同時に災害支援活動団体ボランティア・アーキテクト・ネットワーク(VAN)設立。主な作品に「ハノーバー国際博覧会日本館」「ポンビードー・センター・メス」などがある。「EARTH MANUAL PROJECT展」出展。

### 久富 敏明 **Toshiaki Hisatomi** 建築家

日本大学理工学部建築学科卒業。早稲田大学大学院修士課程修了。Architekturburo Bolles-Wilson (Peter Wilson)、高松伸建築設計事務所に在籍。1992年久富敏明建築設計事務所設立。2007年神戸芸術工科大学准教授に就任。1996年日本建築士会連合会設計競技「元気が出る仮設生活空間」銅賞、SDレビュー2013入賞など。「EARTH MANUAL PROJECT展」出展。

### フィクティヴ有限責任事業組合 **fictive Limited Liability Partnership**

映画監督・濱口竜介を中心として、「KIITOアーティスト・イン・レジデンス2013濱口竜介即興演技ワークショップin Kobe」運営のために結成された有限責任事業組合(LLP)。

### 株式会社フィリーズギャラリー **Phillies Gallery**

フィリーズギャラリーは、代表が学生時代に友人と輸入卸売業を行ったのが会社設立のきっかけ。後にクライアントからグラフィックデザインの依頼を任せられ、現在はグラフィックデザインを中心とした活動を行っている。その他にも店舗内外装デザイン・WEBデザインの活動も。KIITOクリエイティブラボ入居。「オープンKIITO」ではラボを公開し、ワークショップも実施。

### 福田 利之 **Toshiyuki Fukuda** イラストレーター

1967年大阪府生まれ。2005年から東京に拠点を置き、エディトリアル、広告、絵本などさまざまなビジュアル表現を手がけるほか、人気WEBマガジン「ほぼ日刊イトイ新聞」でも連載。2012年には藤本智士との共著『Baby Book』(コクヨS&T)を出版。KIITalk「のんびりの作り方」出演。

### 藤本 智士 **Satoshi Fujimoto** 編集者

1974年兵庫県生まれ。雑誌『Re:S』編集長を経て、秋田からニッポンのふつうを考えるマガジン『のんびり』編集長を務める。ジャニーズ事務所の嵐による「ニッポンの嵐」の編集、原稿執筆を手がけ話題に。2012年、KIITOのクリエイティブラボに入居。「KIITO×Re:Sワークショップ」編集を学ぶかべ新聞部の企画・運営や、KIITO発行物などの企画・編集に携わる。

### NPO法人プラス・アーツ **Nonprofit Organization Plus Arts**

防災、福祉、教育、環境、といった社会の様々な分野の課題に、アートやデザイン、建築といったクリエイティビティ全体を包括した概念である「+arts(プラス・アーツ)」の手法でアプローチし、その問題解決を図り、再活性化に取り組むことを目的に設立。現在は主として防災の分野で企業や自治体、地域団体といった様々なパートナーとともに防災啓発、防災教育のプロジェクトを展開している。代表的な活動として、2005年に神戸市、兵庫県の依頼で開発した楽しく学ぶ防災訓練「イザ!カエルキャラバン!」を全国各地及び海外に普及させており、その開催支援を積極的に行っている。

### 古谷 誠章 **Nobuaki Furuya** 建築家

1955年生まれ。早稲田大学理工学部建築学科卒業。同大学院博士後期課程修了。早稲田大学助手、近畿大学工学部講師を経て、1994年に早稲田大学助教授に就任。1997年より教授。1986年から文化庁建築家芸術家在外研究員としてスイスの建築家マリオ・ボッタの事務所に在籍。1994年に八木佐千子と共同してスタジオナス

カ(NASCA)を設立。日本建築学会作品選賞多数受賞。2007年に「茅野市民館」で日本建築学会賞作品賞、日本建築学会作品選奨、日本建築家協会賞、BCS賞などを受賞、2011年に日本芸術院賞受賞。「EARTH MANUAL PROJECT展」出展。

### 株式会社プレジール **Plaisir Wedding**

Weddingプロデュースを中心にWeddingに関わるファッショショーや展示会のディレクションを行う。現在、「想いを形に創るウェディング」の欧米型ウェディングスタイルの展開を推奨中。会場を先に探すのではなく、二人のウェディングに對しての想いやテーマを考え、素敵な空間の中、大切な時間を共に過ごすゲストの方々と一緒に一体化することのできるWeddingを提案し続けている。KIITOクリエイティブラボ入居。「オープンKIITO」ではラボを公開。

### presscape

建築・デザインスタジオ。人と人の「交流・交換」のきっかけとなる「仕組み・仕掛け」をデザインする。人が集まり、繋がり、積極的、創造的に関われる空間をかたちにする。社会の課題に對して「人間らしい、暮らし。生き方。働き方。」を通して、まとと人が共に生きる風景が根付く「人に貢献する」デザインワークを行う。KIITOクリエイティブラボ入居。「オープンKIITO」ではラボを公開。

### 堀田 裕介 **Yusuke Hotta** 料理研究家

1977年大阪府生まれ。「食べることは生きること 生きることは暮らすこと」をモットーに、都市と地域の架け橋として、生産者と生活者を繋ぐ料理研究家。survivalからentertainmentまで、命と絆をつなぐ食のムーブメントを展開すると共に、風土とfoodを融合させた食のモザイクアート「foodscape」を通して、食べることへと人々を誘う開拓社理人。「EARTH MANUAL PROJECT」レセプションフードをディレクション。

### 堀口 努 **Tsutomu Horiguchi** アートディレクター、デザイナー

1969年愛知県生まれ。「ふつうの人の、ふつうの暮らしをほんの少しだけよく楽しむ」をモットーに、雑誌『Re:S』や「ニッポンの嵐」、秋田のフリー・マガジン「のんびり」「ほんとうのニッポンに出会う旅」「東郷青児～蒼の詩～永遠の乙女たち」「鈴木悦郎 詩と音楽の童画展」など、エディトリアルデザインを中心に、様々なフィールドのグラフィックデザインを手掛ける。KIITalk「のんびりの作り方」出演。

### 本間 直樹 **Naoki Homma** 哲学者

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター、大学院文学研究科准教授。コミュニケーション論を軸に、臨床哲学の試みとして、哲学対話の方法論と実践。こどもの哲学、身体論、ほか、映像、音楽コミュニケーションの実践的研究に取り組む。2005年にCafé Philo(カフェフィロ)を創設、哲学カフェなどの対話活動を推進する。主な業績として、「ドキュメント臨床哲学」(大阪大学出版会)など。KIITOアーティスト・イン・レジデンス2013トークセッションゲスト。

### → 宗

### 松岡 賢太郎 **Kentaro Matsuoka** アートディレクター

1969年広島県生まれ。大阪でデザインを10年経験した後、有限会社トリトン設立。2000年トリトンカフェをオープン。2010年家具ブランド「OVERALL:オーバーオール」、2011年丹波篠山にショップ「TRONCO:トロンコ」をオープン。2012年人生初の個展を開催、自分はデザインが大好きなんだなあと実感中。キトイタ映画部に出演。

### 松尾 加菜子 **Kanako Matsuo** アシスタントデザイナー

2003年、多摩美術大学生産デザイン学科テキスタイルデザイン専攻を卒業後、ベルギーのアントワープ王立芸術アカデミーに入学し、ファッションを学ぶ。帰国後、株式会社イッセイミヤケに入社し、レディースのコレクションラインにて服やアクセサリーなどの企画を担当中。デザイン・トークイベント「Designers」出演。

### 松田 法子 **Noriko Matsuda** 都市史・建築史研究者

1978年生まれ。京都府立大学大学院生命環境科学研究科専任講師。都市と自然の歴史的な切り結びなどに関心をもち、主として温泉一都市を対象に、熱海や別府など近代日本の巨大温泉町の形成とその社会・空間構造について研究。2009年、同テーマによる学位論文にて日本観光研究学会学会賞受賞。著書に『絵はがきの別府』(左右社)。近年はオランダ・フリースラント州や新潟平野など、国内外の沿岸低地部における都市・集落形成と水・低地との関係について調査研究を進めている。「神戸スタディーズ」講師を担当。

### 宮垣 寛美代 **Kimiyo Miyagaki** 元神戸生糸検査所 検査員

KIITOが生糸検査所だった時代に、最後の検査員の1人として勤めた。KIITO内「生糸検査所ギャラリー」を監修。また2014年3月の「オープンKIITO」では、検査機械の使い方や当時の様子を解説するツアーの講師を務めた。

### 宮 City **MiyaCity** 芸術家

アートやデザインと主夫の活動を主に、2011年から京都市左京区一乗寺にドイツ菓子FrauPilzを相棒の独菓子職人と共に立上げ、拠点としている。趣味は音楽活動。KIITOで開催した「世界のTAKIDASHIキッチン」では、フライヤー、店舗の看板づくりを担当。

### モコメシ(小沢 朋子) **mokomeshi / Tomoko Ozawa** フードデザイナー

「食べるシチュエーションをデザインする」がコンセプト。たべる人の行為、たべる時間と経過、そして終わり方。その全てが楽しく、美しく、すとんと腑に落ち、

心に残るものであることを大切にしている。ケータリングの他、メニュー開発、メディアへのレシピ提供、執筆、専門学校講師、ラジオ出演など。2012年末、東京・台東区に「モコメシアトリエ」オープン。スパイス好きが高じて、インドの生活道具の輸入販売を行い、2013年にVISION GLASS JPを立ち上げる。デザイン・トークイベント「Designers」出演。

### Monochrome Circus

京都を拠点に活動するダンスカンパニー。1990年設立。主宰、坂本公成。「身体をめぐる／との対話」をテーマに活動を続け、現在13のレパートリー作品を維持する。それそれがソロやデュオを踊りきる力量を持ちながら、一方でコンタクトなどを活かした有機的なアンサンブルが持ち味のダンサー集団。近年では別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」での「ダンサーを探せ!」(2009)、クリエイティブ集団grafとのコラボレーション作品である瀬戸内国際芸術祭「直島劇場」(2010)や「TROPE」、そしてフランスでの「ダンスアリエル」(2011)など、国内外を問わず、劇場作品から野外でのパフォーマンスまで幅広く展開している。+クリエイティブワークショップ「建築とコンタクト ダンスで巡るKIITOの旅」ショーアイングに出演。

### → ら

### ラッティゴーン・ウッティゴーン **Ruttikorn Vuttikorn** ゲームデザイナー

工業デザインを学んだ後にゲームデザイナーとして活動。こどもたちは質の高いおもちゃにふれるべきだという強い思いを持つ。タイ、及び海外において、様々なパートナーと環境問題や社会、政治問題の解決を目指す教育ゲームの開発を行っている。「EARTH MANUAL PROJECT展」の会期中には、そのノウハウや開発ゲームを紹介したレクチャーや、1週間で参加者と防災ゲームを開発するワークショップを行った。

### Re:S 編集事務所

「Re:Standard=あたらしい“ふつう”を提案する」をコンセプトに、さまざまな活動をつづける編集事務所。雑誌や書籍の編集を始め、イベントや展覧会の企画運営、その他のプロダクトのプロデュースやアートディレクションなど、その真ん中に「編集」を据えて、ものづくりを行う。最近では秋田県発行の雑誌「のんびり」や、吉本興業発行の「おおらかべ新聞」など、編集を軸にローカルデザインを考える事例が話題に。KIITOクリエイティブラボ入居。

### 両見 英世 **Hideyo Ryoken** タイプデザイナー

1982年千葉県生まれ。ウェブ制作会社を経て2007年タイププロジェクトに参加。

タイププロジェクトが掲げる都市フォント構想の推進メンバーとして、「cityfont.com—voice of a city.」の立ち上げに携わり、フォント開発とウェブサイト管理を担当。デザイン・トークイベント「Designers」出演。

### 両備ホールディングス株式会社 **RYOBI HOLDINGS**

両備ホールディングス株式会社のデザイン部門としてKIITOクリエイティブラボに入居。バスや船のデザインを手がける。「オープンKIITO」ではスタジオも公開。

### RooSuFlood

クリエイター、アニメーター、グラフィックデザイナーなど様々な経験を持つメンバーが集まつたボランティアグループ。2011年、タイの大洪水でデータを収集し、洪水の状況、洪水への対処や安全な避難の仕方を伝える一連のアニメーションを作成。テレビやYouTubeで繰り返し流され、タイで大きな反響を呼んだ。主要メンバーの多くは、チュラロンコン大学コミュニケーションアート、美術、応用美術学部の出身。「EARTH MANUAL PROJECT展」出展。

### レッドベアサバイバルキャンプクラブ **Red Bear Survival Camp Club**

NPO法人プラス・アーツが中心となり、キャンプを通して、災害時に生き抜く「たくましさ」「2つのソウゾウリョク(創造力と想像力)」を養うプログラムを開発・実施している。

### → わ

### 和田 武大 **Takehiro Wada** デザイナー

1982年神戸生まれ。大阪デザイナー専門学校卒業。数社のデザイン制作会社を経て、2006年に株式会社キューピックデザインの立ち上げに参加。グラフィックデザインを中心に、市民参加型等のイベント企画、アートディレクターも担当。2009年より大阪デザイナー専門学校非常勤講師も兼務。ちびっこうべシリーズ講師を担当。

### 渡辺 真起子 **Makiko Watanabe** 女優

1968年生まれ、東京都出身。1986年モデルとして活動開始。1988年、中島哲也監督「バカラヤー!私、怒ってます」で映画デビュー。以後映画を中心に、舞台やTVドラマでも活躍。主な映画出演作品に『M/OTHER』『猿の森』『愛の予感』『愛のむきだし』『チチを握りに』など。出演作品の多くが国内外の映画祭で高い評価を受けている。公開待機作として、河瀬直美監督最新作『二つの窓』(2014年夏)がある。KIITOアーティスト・イン・レジデンス2013「ダイアローグ・カフェ」に出演。

### 矢守 克也 **Katsuya Yamori**

1963年生まれ。京都大学防災研究所巨大災害研究センター教授。同阿武山観測所教授、同大学院情報学研究科教授を併任。専門は防災心理学。著書に「防災ゲームで学ぶリスク・コミュニケーション」などがあり、「クロスロード」「ぼうさいダック」などの防災ゲームを開発した。人と防災未来センター上級研究員、文部科学省地震調査研究推進本部専門委員、高知県津波からの避難方法ガイドラインの検討委員会委員長、大阪府防災会議専門委員などを務める。+クリエイティブゼミの特別レクチャー講師を担当。

### 弓削牧場(弓削忠生・弓削和子) **Latière Yuge (Tadao Yuge and Kazuko Yuge)**

風に揺れる可憐な野の草やハーブ、小鳥のさえずり、そして時折聞こえる子牛の鳴き声…神戸市の中心部から車でわずか20分ほどの距離にある、豊かな自然に囲まれた牧場。夫婦で酪農家として牛を育て、乳を搾り、その牛乳をチーズに加工し、販売、提供している。神戸料理フォーラムで牧場見学、チーズづくり、レクチャーの講師を担当。

## 組織

### Organization Structure

デザイン・クリエイティブセンター神戸(神戸市)

指定管理者 : iop 都市文化創造研究所

ビースリーマネジメント

神戸商工貿易センター共同事業体

Designated administrator of Design and Creative Center Kobe (City of Kobe):

Joint venture of City Culture Creation Research Institute

P3 Management

Kobe Commerce, Industry and Trade Center

デザイン・クリエイティブセンター神戸

企画事業部

施設管理部

Design and Creative Center Kobe

Event and Exhibition Planning Department

Facility Management Department

## スタッフ

### Staff

センター長 副センター長

芹沢高志 永田宏和

Executive Director Vice Director

Takashi Serizawa Hirokazu Nagata

#### → 企画事業部

近藤健史 加藤慧  
坂本友里恵 中野優  
藤原麻衣 松本ひとみ

#### → Event and Exhibition Planning Department

Kenji Kondo Kei Kato  
Yurie Sakamoto Yu Nakano  
Mai Fujiwara Hitomi Matsumoto

#### → 施設管理部

宮武弘 小嶋信作  
稻田知英 山本邦子

#### → Facility Management Department

Hiromu Miyatake Shinsaku Kojima  
Tomohide Inada Kuniko Yamamoto

## KIITO ドキュメントブック 2013

### KIITO Documentary Book 2013

企画・制作・編集

デザイン・クリエイティブセンター神戸

Editing

Design and Creative Center Kobe

アートディレクション & デザイン

寄藤文平+北谷彩夏 (文平銀座)

Art Direction & Design

Bunpei Yorifuji + Ayaka Kitatani / Bunpei Ginza

編集ディレクション

竹内厚 (Re:S)

Editorial Direction

Atsushi Takeuchi / Re:S

翻訳

Tim Lemon

Translation

Tim Lemon

写真

伊東俊介 p4-5, 6, 16-17, 72

伊東かおり p25 (3段目)

岩崎暁子 p31 (3段目), 44, 54

片山俊樹 p20, 21 (4段目), 22 (2,3段目), 25 (2段目), 27 (1,3段目)

SKKY p63 (1,2,4段目)

辻本しんこ p21 (1-3段目), 23 (3段目), 24 (1,2段目)

永倉真衣 p9, 66, 67, 70

林成光 p55

福井香菜子 p22 (1段目)

ペータ p12, 22 (4段目)

森本奈津美 p45 (1段目), 60 (1段目)

Photo

Shunsuke Ito p4-5, 6, 16-17, 72

Kaori Ito p25 (upper half lower)

Akiko Iwasaki p31 (upper half lower), 44, 54

Toshiki Katayama p20, 21 (lower half lower), 22 (upper half lower, lower half upper), 25 (upper half lower), 27 (upper half upper, lower half upper)

SKKY p63 (upper half, lower half lower)

Shinko Tsujimoto p21 (upper half, lower half upper), 23 (lower half upper), 24 (upper half)

Mai Nagakura p9, 66, 67, 70

Shigemitsu Hayashi p55

Kanako Fukui p22 (upper half upper)

Peta p12, 22 (lower half lower)

Natsumi Morimoto p45 (upper half upper), 60 (upper half upper)

2014年3月初版発行

発行 デザイン・クリエイティブセンター神戸

〒651-0082 兵庫県神戸市中央区小野浜町1-4

info@kiito.jp

<http://kiito.jp/>

First published March 2014

Publisher: Design and Creative Center Kobe

1-4, Onohama-cho, Chuo-ku, Kobe-shi, Hyogo-ken, Japan, 651-0082

info@kiito.jp

<http://kiito.jp/>

© Design and Creative Center Kobe



DESIGN AND CREATIVE CENTER KOBE

April 1, 2013 → March 31, 2014